

練馬区医療環境に関する資料

練 馬 区

目次

| | | |
|------|----------------------------|----|
| I. | 区の医療需要の動向 | 1 |
| 1 | 人口推移 | 1 |
| 2 | 将来推計人口 | 2 |
| 3 | 患者数の推計 | 5 |
| (1) | 入院・外来患者数の推計 | 5 |
| (2) | 年齢階層別入院患者数の推計 | 6 |
| ア | 全体 | 6 |
| イ | 上位5疾患の年齢階層別・疾患別入院患者数の推計 | 7 |
| (3) | 年齢階層別外来患者数の推計 | 12 |
| ア | 全体 | 12 |
| イ | 上位5疾患の年齢階層別・疾患別外来患者数の推計 | 13 |
| (4) | 区民が受診する医療機関の所在地の状況 | 18 |
| ア | 入院患者の医療機関所在地の状況 | 19 |
| イ | 外来患者の医療機関所在地の状況 | 20 |
| 4 | 主要死因別死亡数 | 21 |
| II. | 区の医療施設の現状 | 22 |
| 1 | 病院・診療所・歯科診療所・薬局の施設数 | 22 |
| 2 | 病院・診療所の病床数 | 23 |
| 3 | 診療所の標榜診療科数 | 26 |
| III. | 救急医療 | 27 |
| 1 | 搬送医療機関別搬送件数 | 27 |
| 2 | 二次救急医療機関数 | 29 |
| 3 | 重症度別搬送件数 | 30 |
| 4 | 救命救急センターとその他医療機関別の重症度別搬送件数 | 31 |
| 5 | 救命救急センターの疾患別搬送件数 | 32 |
| 6 | 区と医療圏の小児救急医療の提供体制 | 33 |
| IV. | 災害時の医療 | 34 |
| 1 | 震災発生時の被害想定 | 34 |
| 2 | 被害想定に対する災害拠点病院数の状況 | 34 |
| V. | 在宅医療 | 36 |
| 1 | 在宅医療の患者数 | 36 |
| (1) | 訪問診療対象患者数の推計 | 36 |

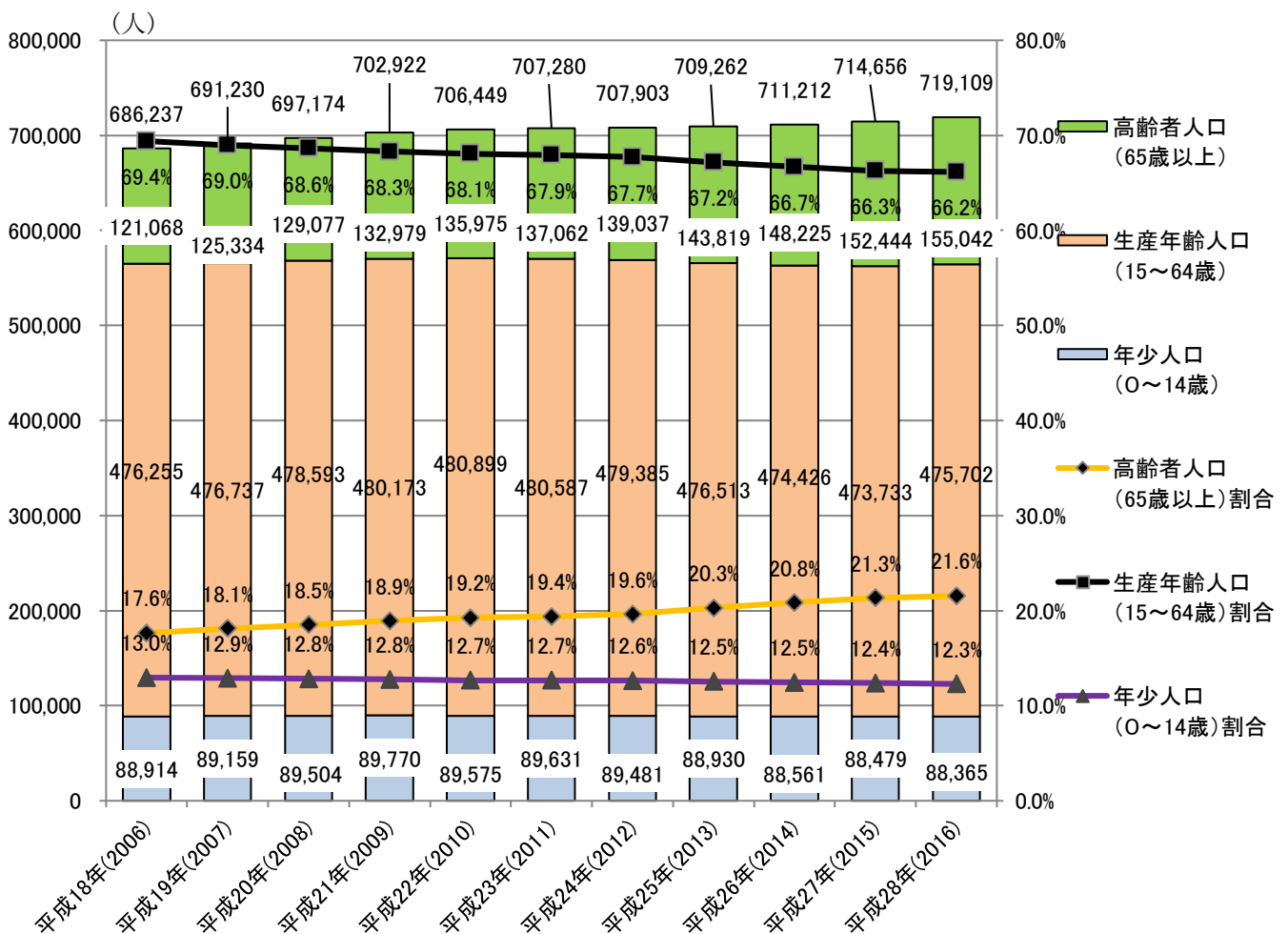
| | | |
|-----|------------------------|----|
| (2) | 看取り件数の推移..... | 37 |
| (3) | 要支援・要介護認定者数の将来推計..... | 38 |
| 2 | 在宅医療関係施設..... | 39 |
| 3 | 介護関係施設数の状況..... | 40 |
| 4 | 高齢者の在宅医療等に関する調査結果..... | 42 |

I. 区の医療需要の動向

1 人口推移

- ・ 総人口は、平成18年（2006年）の686,237人から28年（2016年）には719,109人と一貫して増加しています。
- ・ 年齢階層別では、年少人口（0～14歳）は平成21年の89,770人をピークに、生産年齢人口（15～64歳）は平成22年（2010年）の480,899人をピークに、減少傾向にあります。一方、高齢者人口（65歳以上）は、急速に増加しています。
- ・ 総人口に占める割合については、年少人口と生産年齢人口は微減であるのに対し、高齢者人口は増加し続け、平成27年からは21%を超えています。

図表 1：練馬区の人口推移

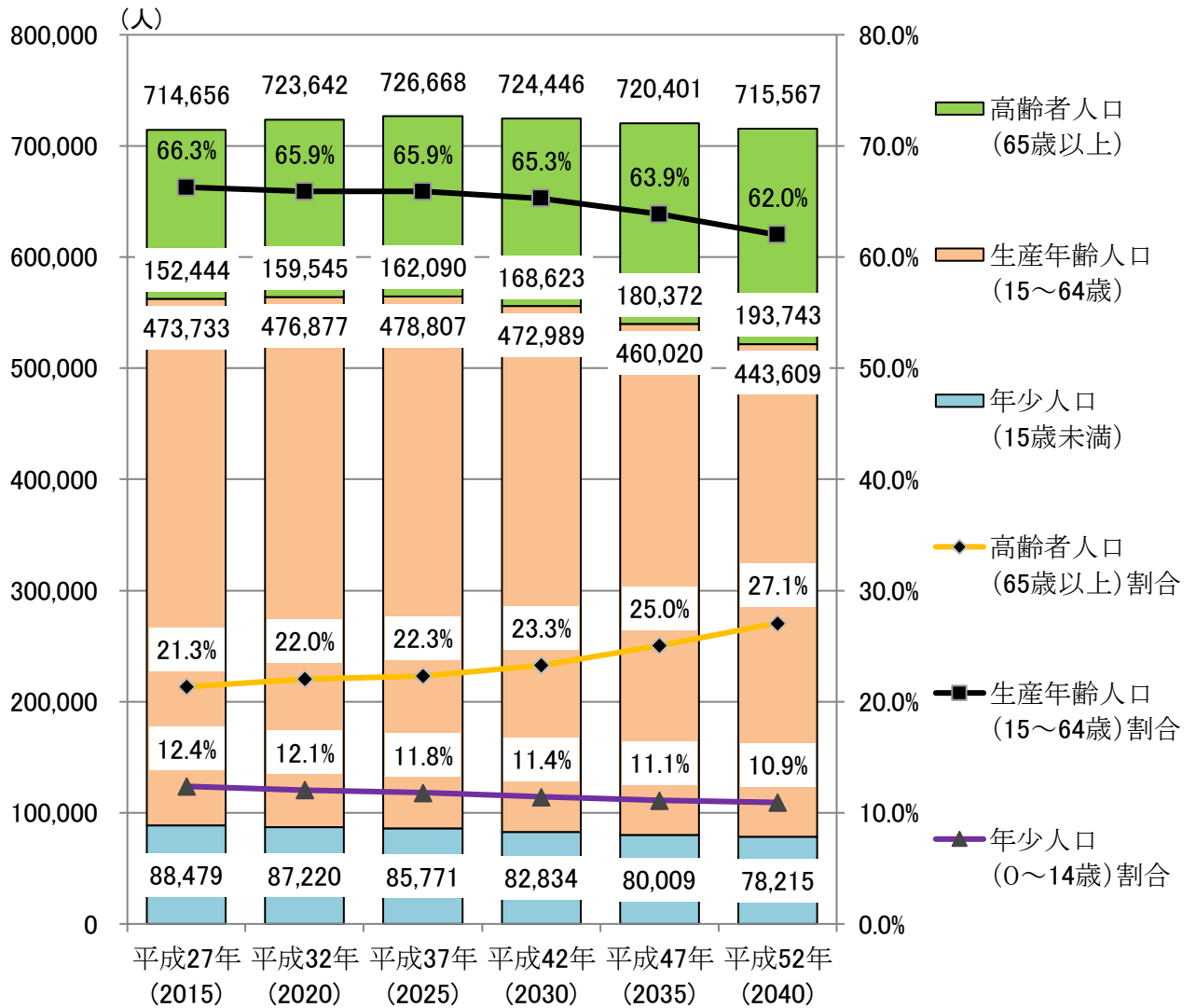


出典：練馬区「住民基本台帳」（外国人を含む。各年1月1日現在）

2 将来推計人口

- ・ 練馬区人口ビジョンにおける将来推計人口では、総人口は平成30年代後半まで増加し、以降減少に転じます。
- ・ 年齢階層別では、年少人口は一貫して減少し、生産年齢人口は平成30年代後半をピークに以降減少します。高齢者人口は一貫して増加します。

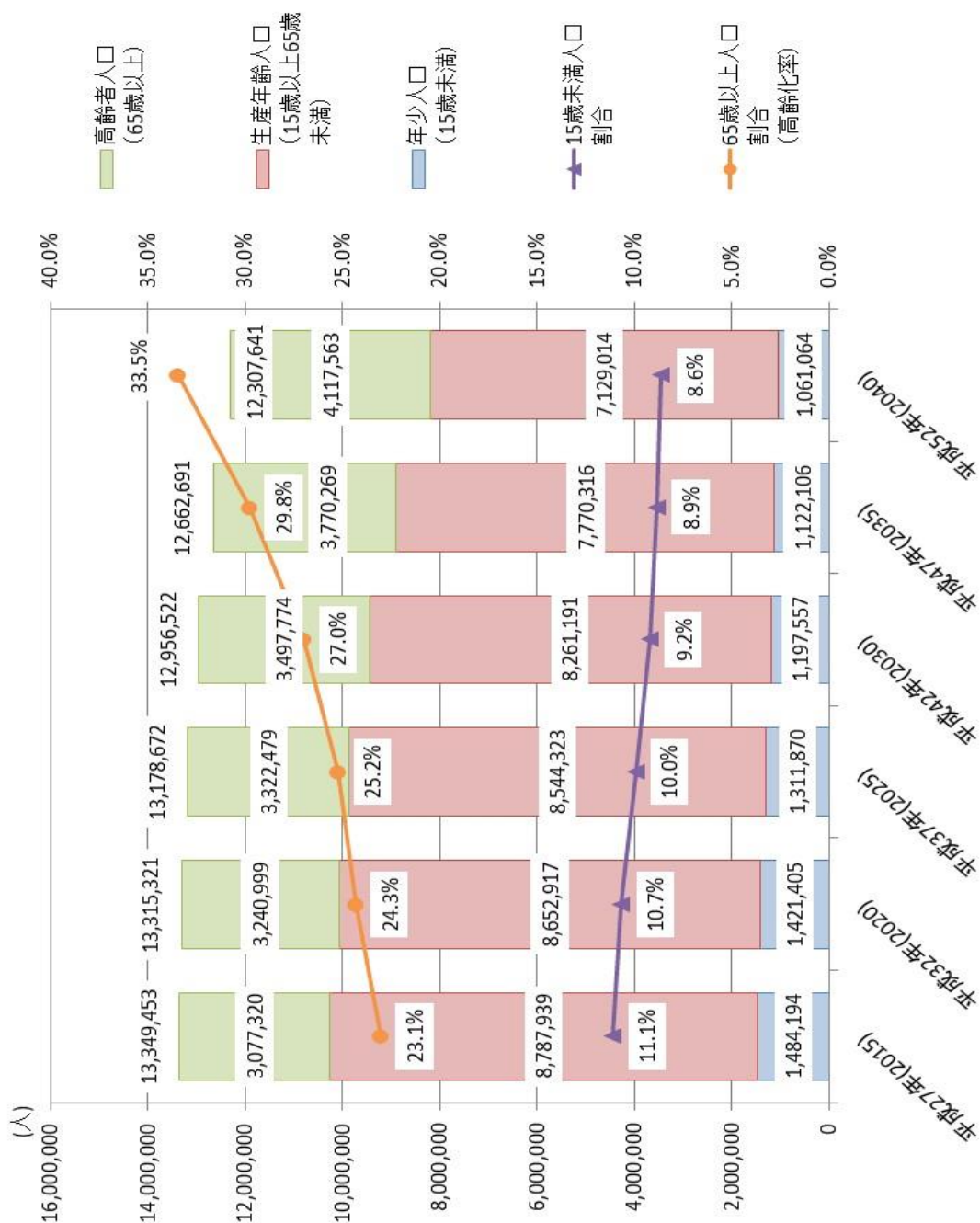
図表 2：練馬区の将来推計人口



※平成27年は住民基本台帳人口の実績。以降は推計。
 出典：練馬区人口ビジョン（平成27年（2015年）12月）

- ・ 国立社会保障・人口問題研究所の日本の地域別将来推計（平成 25 年 3 月）では、東京都、区西北部医療圏¹とも、生産年齢人口、年少人口は減少するのに対し、高齢者人口は大きく増加すると推計されています。

図表 3：東京都の将来推計人口



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年（2013 年）3 月）」

¹ 区西北部医療圏…原則として特殊な医療を除く一般の医療ニーズに対応するために都が設定する保健医療圏域で、入院医療を確保するとともに、医療機関の機能連携に基づく医療サービスと広域的、専門的な保健サービスとの連携などにより、都民に包括的な保健医療サービスを提供する区域。練馬区は豊島区、北区、板橋区とともに区西北部医療圏に属している。

図表 4：区西北部医療圏の将来推計人口



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年（2013年）3月）」

3 患者数の推計

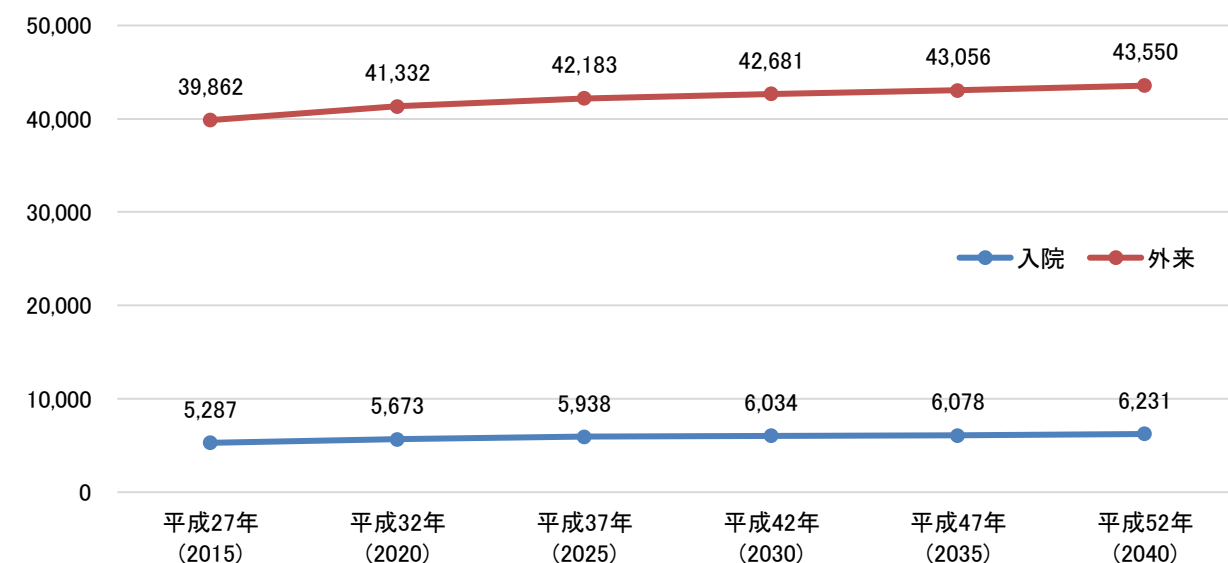
【患者数の推計方法】

- ・ 厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」より、東京都の平成 26 年（2014 年）入院・外来患者受療率（疾病分類別・男女別・年齢階層別）を抽出。
- ・ 上記の入院・外来患者受療率に練馬区人口ビジョンに基づく男女別・年齢階層別の将来推計人口を乗じることで将来の入院・外来患者数を試算。
- ・ 受療率は平成 26 年（2014 年）の数値を固定。社会変動や医療政策による影響等は考慮していない。

(1) 入院・外来患者数の推計

- ・ 入院・外来ともに、1 日あたりの患者総数は増加する見込みです。
- ・ 入院患者は、平成 27 年（2015 年）の約 5,300 人から平成 52 年（2040 年）には約 6,200 人まで増加する見込みです。
- ・ 外来患者は、平成 27 年（2015 年）の約 40,000 人から平成 52 年（2040 年）には約 44,000 人まで増加する見込みです。

図表 5：練馬区の入院・外来患者数の推計（患者住所地ベース²）



出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区人口ビジョン（平成 27 年（2015 年）12 月）を参考に練馬区推計

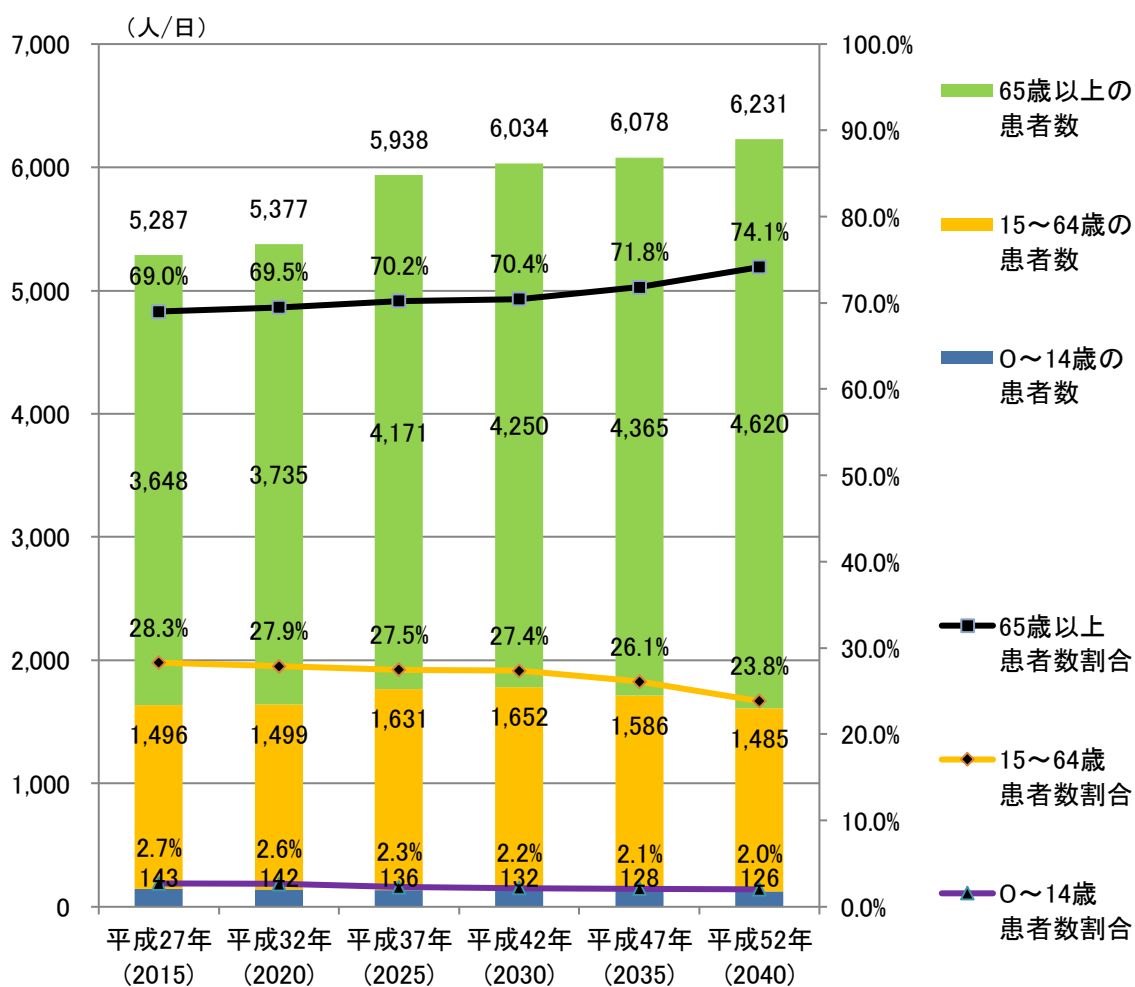
²患者住所地ベース…練馬区に住所がある患者数。練馬区に所在地のある医療機関を受診している患者数については、「施設所在地ベース」という。

(2) 年齢階層別入院患者数の推計

ア 全体

- ・ 年齢階層別では 65 歳以上の高齢者が最も多く、高齢化の進行により、平成 27 年と比較して平成 52 年には約 1,000 人増加し約 4,600 人と推計されます。
- ・ 15～64 歳の患者数は、平成 40 年代前半まで微増するものの、その後は減少し、平成 52 年には平成 27 年とほぼ同じ約 1,500 人と推計されます。
- ・ 0～14 歳以下の患者数は微減し、平成 52 年には約 130 人と推計されます。

図表 6：年齢階層別入院患者数の推計（患者住所地ベース）



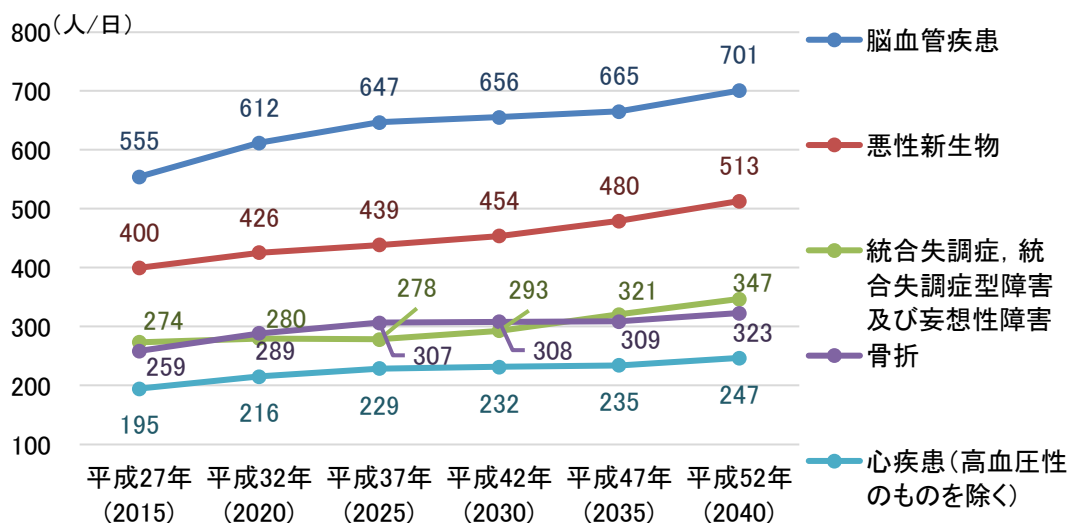
出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区人口ビジョン（平成 27 年（2015 年）12 月）を参考に練馬区推計

イ 上位5疾患の年齢階層別・疾患別入院患者数の推計

① - 1 65歳以上（高齢者全般）

- ・ 高齢者の入院患者数の多い上位5疾患は、「脳血管疾患³」「悪性新生物⁴」「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害⁵」「骨折⁶」「心疾患（高血圧性のものを除く）⁷」であり、5疾病で約5割を占めます。高齢者人口の増加に伴い、入院患者数も増加していきます。

図表 7：65歳以上の入院患者数の推計（患者住所地ベース）：ICD10⁸中分類



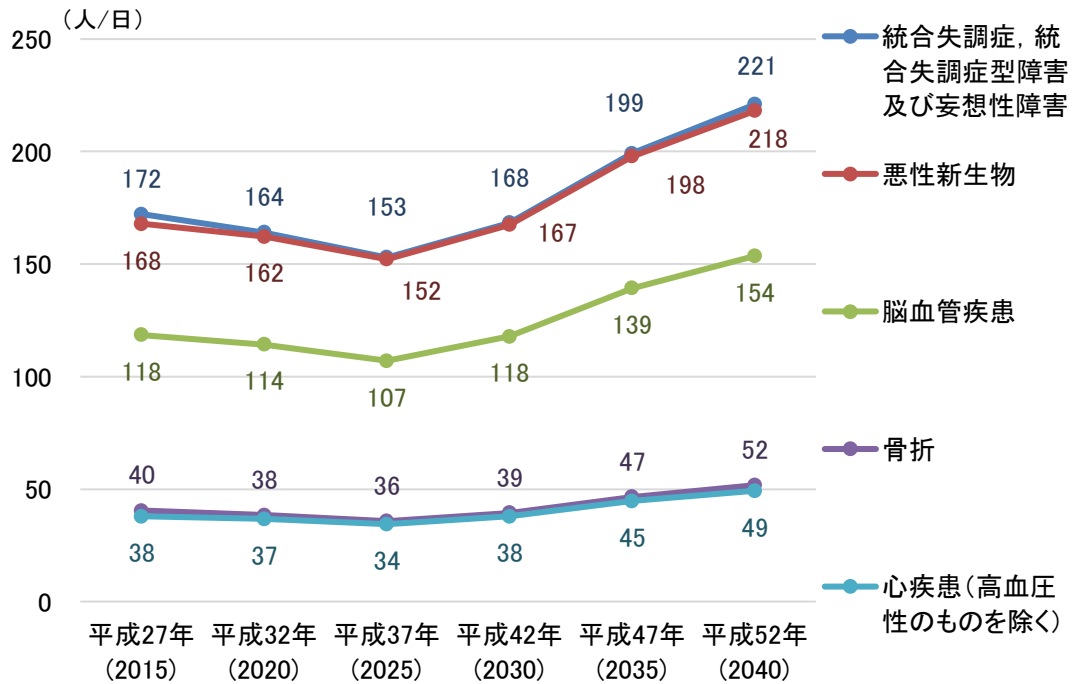
出典：厚生労働省「平成26年（2014年）患者調査」、練馬区人口ビジョン（平成27年（2015年）12月）を参考に練馬区推計

- ³ 脳血管疾患…脳の血管の異常によって脳細胞が障害を受ける病気の総称。主なものには、脳卒中がある。脳卒中は特に後遺症が残りやすい疾患で、その多くは脳梗塞といわれており、脳の血管内に血栓（血のかたまり）が詰まることで引き起こされる病気。
- ⁴ 悪性新生物…細胞が何らかの原因で変異して増殖を続け、周囲の正常な組織を破壊する腫瘍。がんや肉腫などがこれに入る。
- ⁵ 統合失調症、統合失調症障害及び妄想性障害…幻覚や妄想という症状が特徴的な精神疾患。
- ⁶ 骨折…直接あるいは間接的に加わった強い外力により、骨のつながりが途絶えてしまう状態。
- ⁷ 心疾患（高血圧性のものを除く）…心臓に起こる病気の総称。心疾患の大部分を占めているのが「虚血性心疾患」。虚血性心疾患は、心臓の筋肉（心筋という）へ血液を送る冠動脈の血流が悪くなり、心筋が酸素不足・栄養不足に陥るものをいう。この中で最も致命的なものが「急性心筋梗塞」。急性心筋梗塞は、冠動脈に血栓（血のかたまり）が詰まることで引き起こされる病気。概ね30分以内の治療（カテーテル治療等）開始が一つの目安となっており、一刻も早くCCU（冠疾患集中治療室；心臓疾患の患者を専門的に管理する治療室）を有する病院で治療を受けることが重要。
- ⁸ ICD10…「疾病及び関連保健問題の国際統計分類：International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems（「ICD」）」とは、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うため、世界保健機関憲章に基づき、世界保健機関（WHO）が作成した分類。全22章からなる大分類と、大分類と包括関係にある、より細かい疾患名の中分類、小分類から構成される。

① - 2 65～74 歳（前期高齢者）

・ 65～74 歳（前期高齢者）の入院患者数の多い上位 5 疾患は、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」「悪性新生物」「脳血管疾患」「骨折」「心疾患（高血圧性のものを除く）」です。団塊の世代が後期高齢者に移行することに伴い、平成 30 年代後半まで患者数は減少しますが、その後増加に転じると見込まれます。

図表 8：65～74 歳の入院患者数の推計（患者住所地ベース）：ICD10 中分類

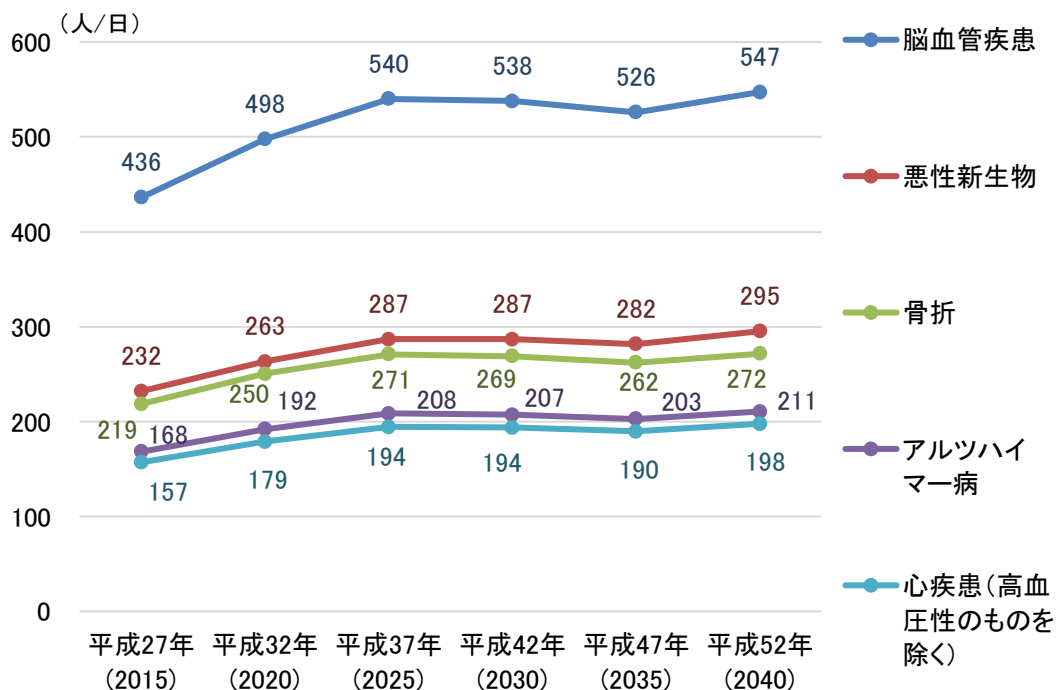


出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区人口ビジョン（平成 27 年（2015 年）12 月）を参考に練馬区推計

① - 3 75歳以上（後期高齢者）

- 75歳以上（後期高齢者）の入院患者数の多い上位5疾患は、「脳血管疾患」「悪性新生物」「骨折」「アルツハイマー病⁹」「心疾患（高血圧性のものを除く）」です。前期高齢者では3位であった脳血管疾患が1位になっています。また、アルツハイマー病が4位となっています。

図表 9：75歳以上の入院患者数の推計（患者所在地ベース）ICD10 中分類



出典：厚生労働省「平成26年（2014年）患者調査」、練馬区人口ビジョン（平成27年（2015年）12月）を参考に練馬区推計

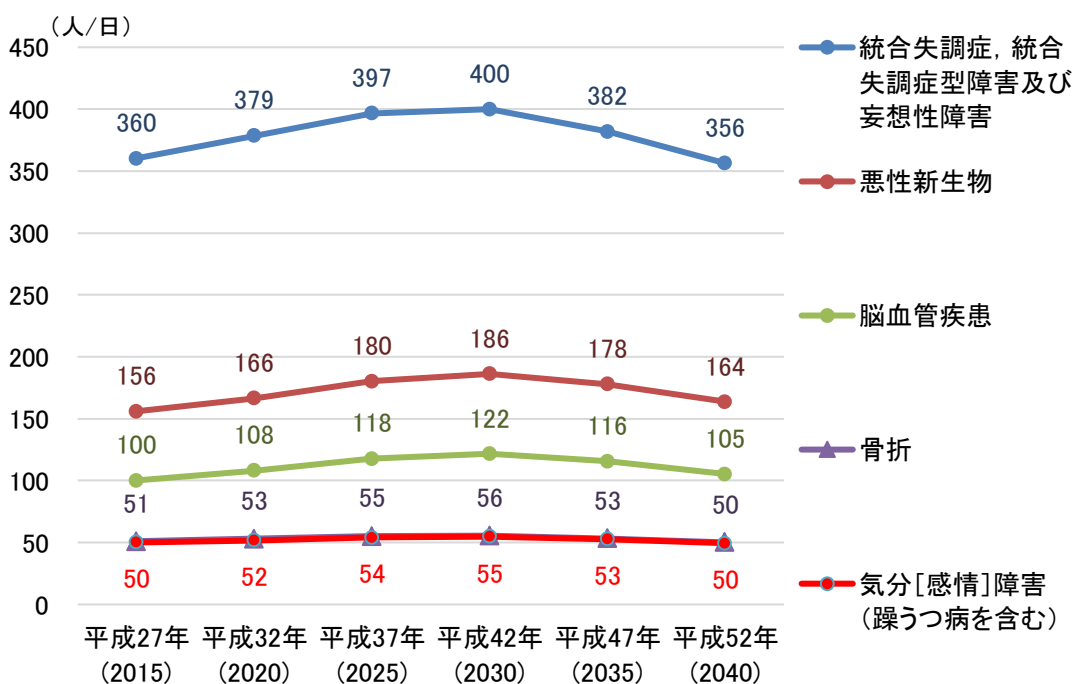
※図表7 65歳以上の入院患者数と、図表8 65～74歳の入院患者数と図表9 75歳以上の入院患者数の合計は、小数点以下の処理の関係で数値が合致しない場合がある。

⁹ アルツハイマー病…認知機能の低下や人格の変化が主な症状である認知症の一種。ほとんどのアルツハイマー病の患者は、60歳以降に初めて症状が現れる。

② 15～64 歳

・ 15～64 歳の入院患者数の多い上位 5 疾患は、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」「悪性新生物」「脳血管疾患」「骨折」「気分『感情』障害（躁うつ病を含む）¹⁰」であり、5 疾病で約 5 割を占めます。いずれも、平成 40 年代前半まで微増し、以降減少に転じます。平成 52 年には平成 27 年と同程度と推計されます。

図表 10：15～64 歳の入院患者数の推計（患者住所地ベース）：ICD10 中分類



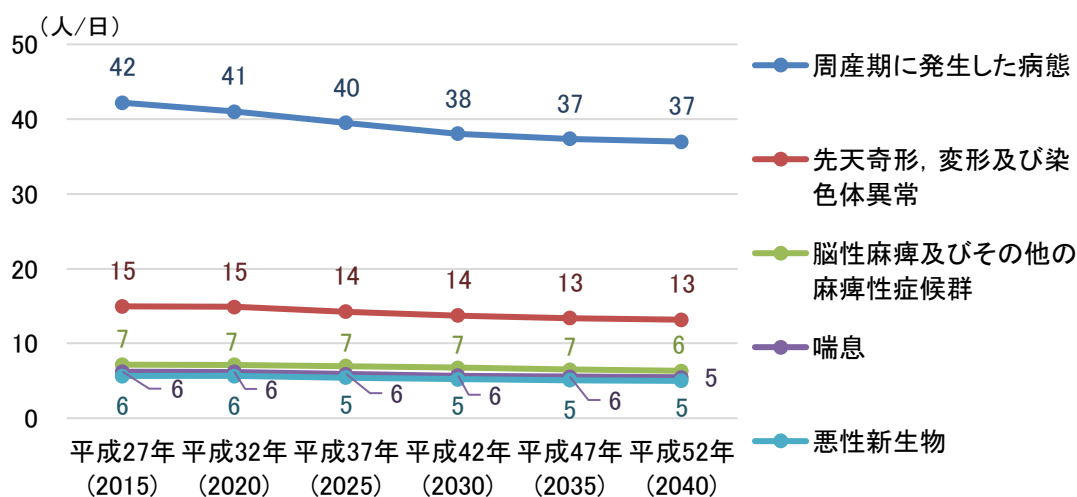
出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区人口ビジョン（平成 27 年（2015 年）12 月）を参考に練馬区推計

¹⁰ 気分「感情」障害（躁うつ病を含む）…感情や意欲の面で極端な上昇や落ち込みが現れる精神疾患。気分障害はうつ病のみを繰り返すものと、躁状態とうつ状態を繰り返す躁うつ病があり、自殺リスクが高いことが特徴。

③ 0～14歳

・ 0～14歳の入院患者数の多い上位5疾患は、「周産期に発生した病態¹¹」「先天性奇形、変形及び染色体異常¹²」「脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群¹³」「喘息¹⁴」「悪性新生物」であり、5疾病で約5割を占めます。いずれも減少すると見込まれます。

図表 11：0～14歳の入院患者数の推計（患者住所地ベース）：ICD10中分類



出典：厚生労働省「平成26年（2014年）患者調査」、練馬区人口ビジョン（平成27年（2015年）12月）を参考に練馬区推計

¹¹ 周産期に発生した病態…早産による低出生体重児や分娩時の新生児仮死などが発生している状態。

¹² 先天性奇形、変形及び染色体異常…先天的に確認される異常の1つ。先天異常は形態的なものや内分泌系、神経、知能の発達など様々なものがある。疾患名では、無脳症や二分脊椎症、ダウン症、口唇裂・口蓋裂、小眼症などが挙げられる。

¹³ 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群…受精後から生後4週以内に何らかの原因で脳に損傷を受けることで引き起こされる運動機能の障害をさす症候群。

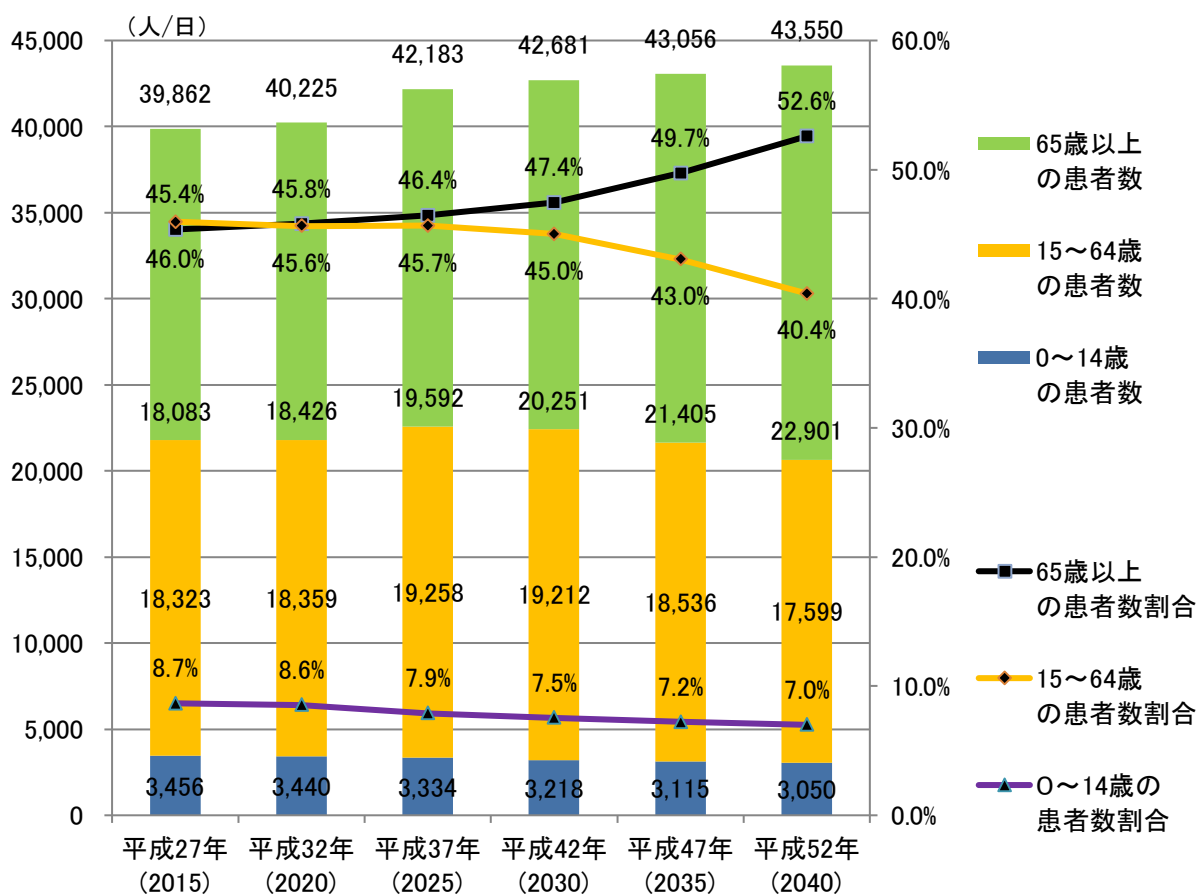
¹⁴ 喘息…気管支が急激に収縮し、呼吸困難の発作を繰り返す病気。特に小児の喘息は、ハウスダストやダニ、花粉のアレルギーで起こることが多いといわれている。

(3) 年齢階層別外来患者数の推計

ア 全体

- ・年齢階層別にみると、平成27年では15～64歳の患者数が最も多くなっていますが、高齢化の進展に伴い高齢者の患者数が増加するため、平成30年代前半には高齢者の患者数が多くなると見込まれます。0～14歳の患者数は一貫して減少する見込みです。

図表 12：年齢階層別外来患者数の推計（患者所在地ベース）



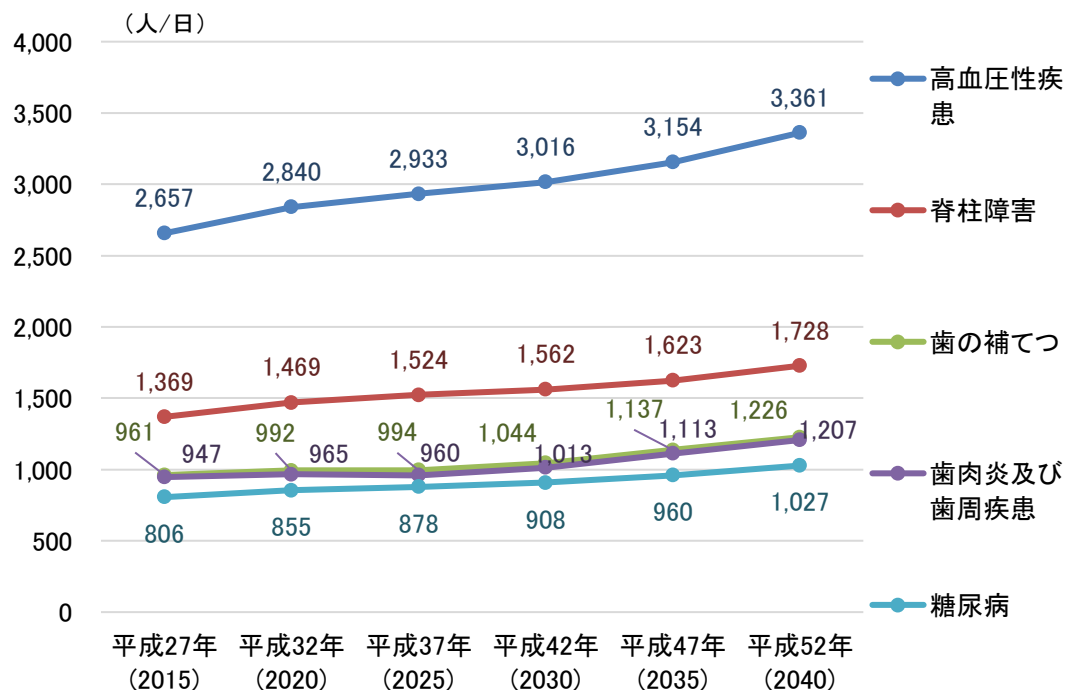
出典：厚生労働省「平成26年（2014年）患者調査」、練馬区人口ビジョン（平成27年（2015年）12月）を参考に練馬区推計

イ 上位5疾患の年齢階層別・疾患別外来患者数の推計

① - 1 高齢者全般（65歳以上）

・高齢者の外来患者数の多い上位5疾患は、「高血圧性疾患¹⁵」「脊柱障害¹⁶」「歯の補てつ¹⁷」「歯肉炎及び歯周疾患¹⁸」「糖尿病¹⁹」です。高齢化の進展に伴って、患者数は増加します。特に高血圧性疾患の患者数は約700人増加します。

図表 13：65歳以上の外来患者数の推計（患者住所地ベース）：ICD10中分類



出典：厚生労働省「平成26年（2014年）患者調査」、練馬区人口ビジョン（平成27年（2015年）12月）を参考に練馬区推計

¹⁵ 高血圧性疾患…高血圧が原因で心臓に障害の起きた状態。

¹⁶ 脊柱障害…何らかの原因で脊柱が曲がったり、脊柱管内のスペースがつぶれたりすることで、しびれや麻痺等が発生する障害。

¹⁷ 歯の補てつ…見た目やかみ合わせを被せ物（クラウン）や入れ歯等人工の歯で補う治療法。

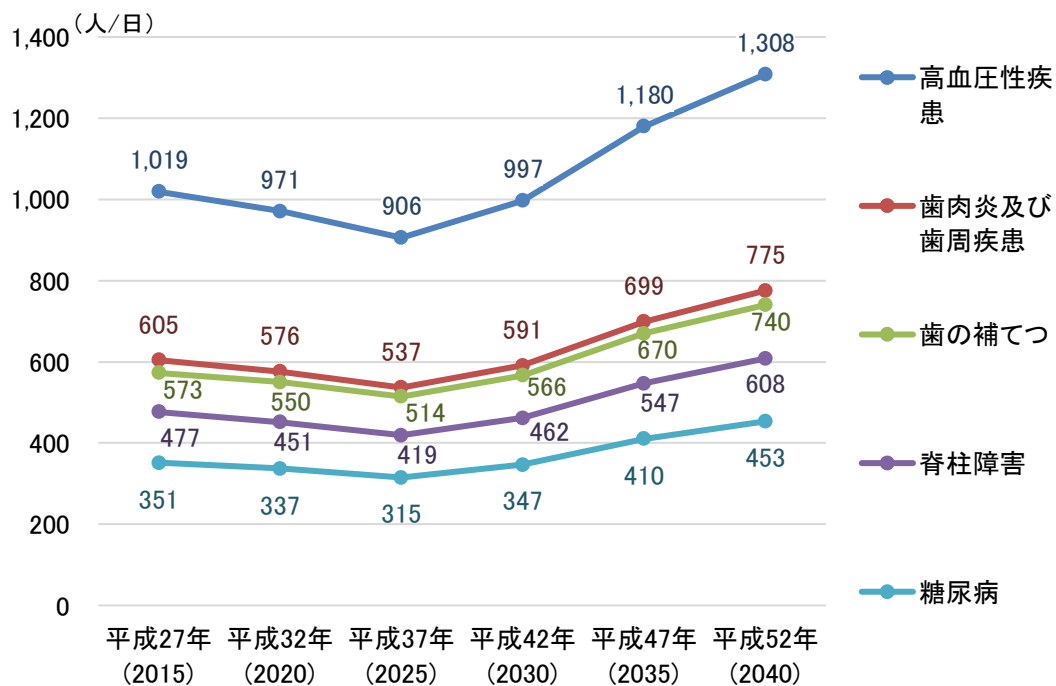
¹⁸ 歯肉炎及び歯周疾患…歯肉炎は、歯肉が赤くなる、炎症や腫れ、歯肉出血などが起きた状態。歯周疾患は、歯肉、歯槽骨（歯を支えている骨）などの歯周組織におこる病気の総称。

¹⁹ 糖尿病…糖尿病は、国民の5人に1人以上が糖尿病患者または予備群といわれるほど患者数が多い疾病。適切な治療をせずに重症化すると、糖尿病性昏睡等の急性合併症や大血管の動脈硬化による虚血性心疾患・脳梗塞、神経や目や腎臓などにさまざまな障害を起こす慢性合併症、歯周病等、全身におよぶ合併症を引き起こす。

① - 2 前期高齢者（65～74 歳）

・65～74 歳（前期高齢者）の外來患者数の多い上位 5 疾患は、「高血圧性疾患」「歯肉炎及び歯周疾患」「歯の補てつ」「脊柱障害」「糖尿病」です。団塊の世代が後期高齢者に移行することに伴い、平成 30 年代後半まで患者数は減少しますが、その後増加に転じると見込まれます。

図表 14：65～74 歳の外來患者数の推計（患者住所地ベース）：ICD10 中分類

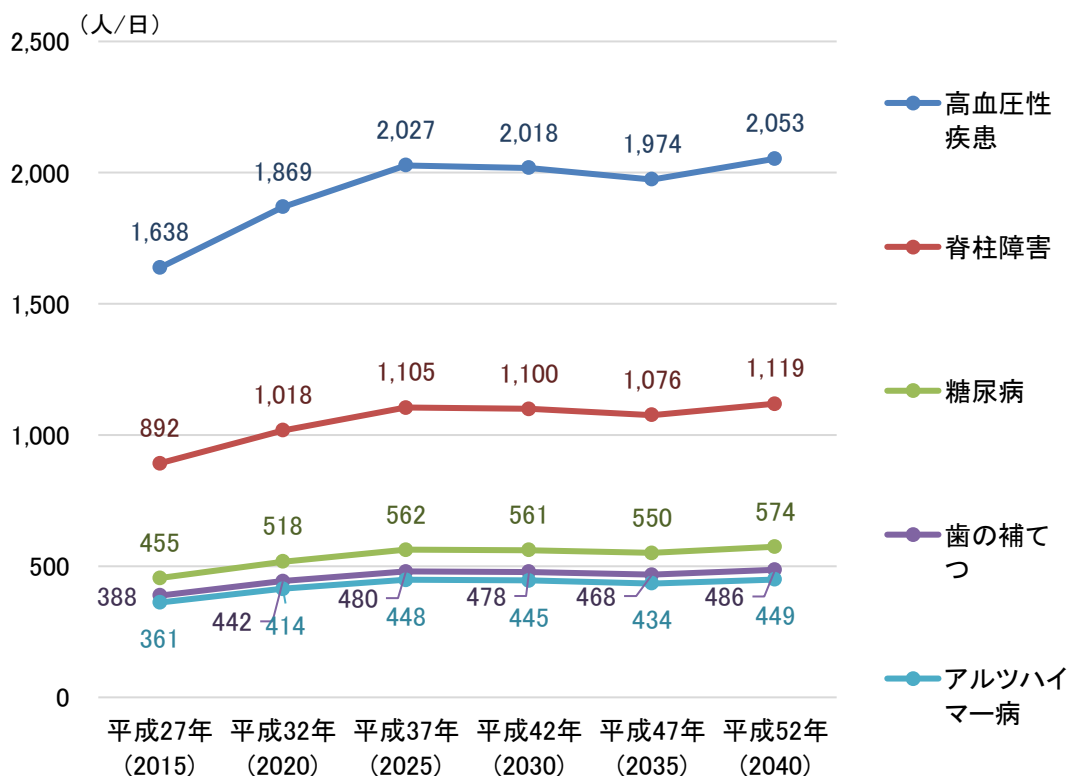


出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区人口ビジョン（平成 27 年（2015 年）12 月）を参考に練馬区推計

① - 3 75歳以上（後期高齢者）

- 75歳以上（後期高齢者）の外来患者数の多い上位5疾患は、「高血圧性疾患」「脊柱障害」「糖尿病」「歯の補てつ」「アルツハイマー病」です。前期高齢者より患者数が多く、増加傾向が続きます。また、入院患者の場合と同様、前期高齢者にはなかったアルツハイマー病が入っています。

図表 15：75歳以上の外来患者数の推計（患者住所地ベース）：ICD10 中分類



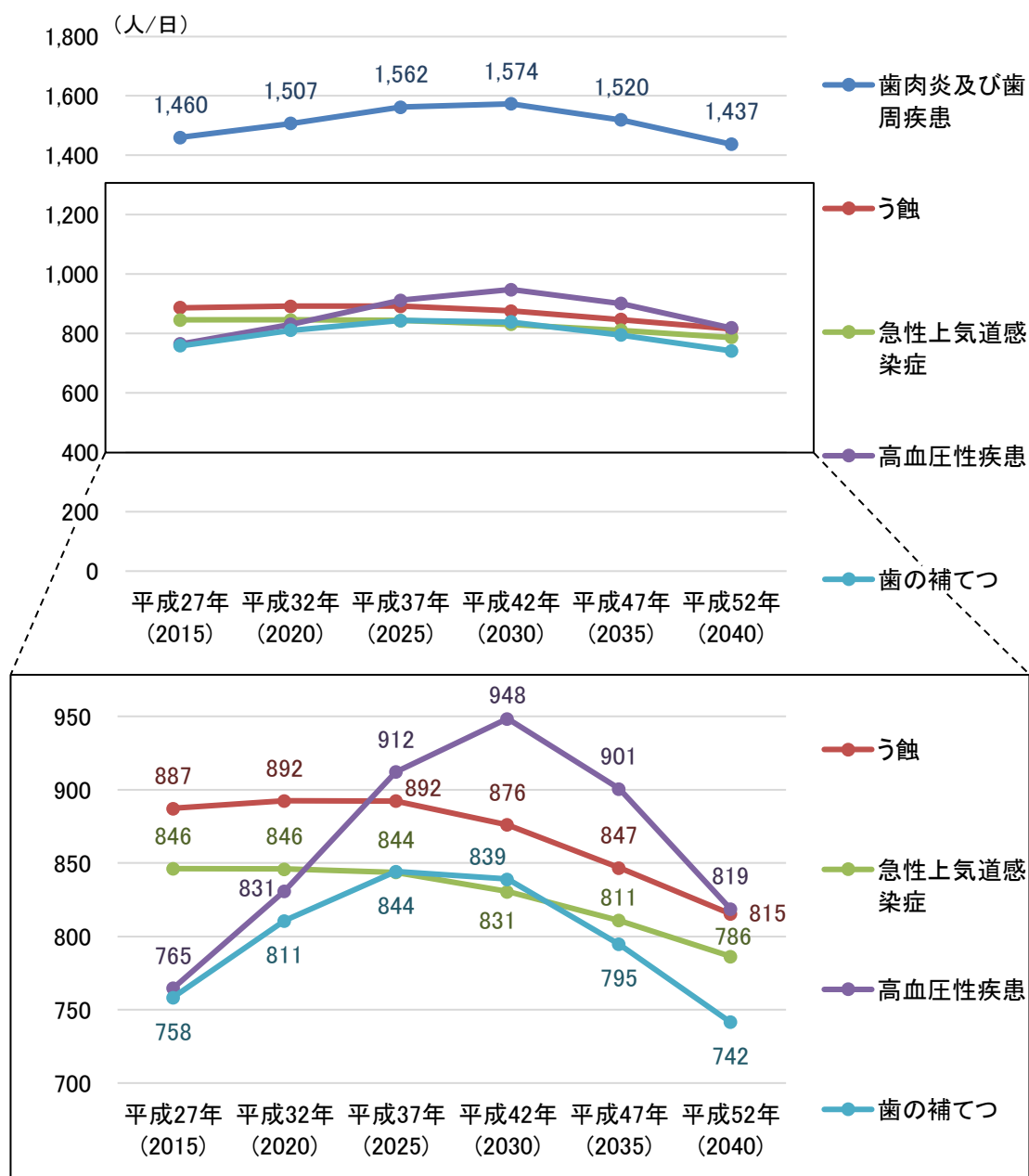
出典：厚生労働省「平成26年（2014年）患者調査」、練馬区人口ビジョン（平成27年（2015年）12月）を参考に練馬区推計

※図表13 65歳以上の外来患者数と、図表14 65～74歳の外来患者数と図表15 75歳以上の外来患者数の合計は、小数点以下の処理の関係で数値が合致しない場合がある。

② 15～64 歳

・15～64歳の外来患者数の多い上位5疾患は、「歯肉炎及び歯周疾患」「う蝕²⁰」「急性上気道感染症²¹」「高血圧性疾患」「歯の補てつ²²」です。平成30年代後半から40年代前半にかけて増加し、その後減少すると見込まれます。

図表 16：15～64歳の外来患者数の推計（患者住所地ベース）：ICD10中分類



出典：厚生労働省「平成26年（2014年）患者調査」、練馬区人口ビジョン（平成27年（2015年）12月）を参考に練馬区推計

²⁰ う蝕…口腔内の細菌が糖質から作った酸によって、歯質が脱灰されて起こる、歯の実質欠損のこと（虫歯）。

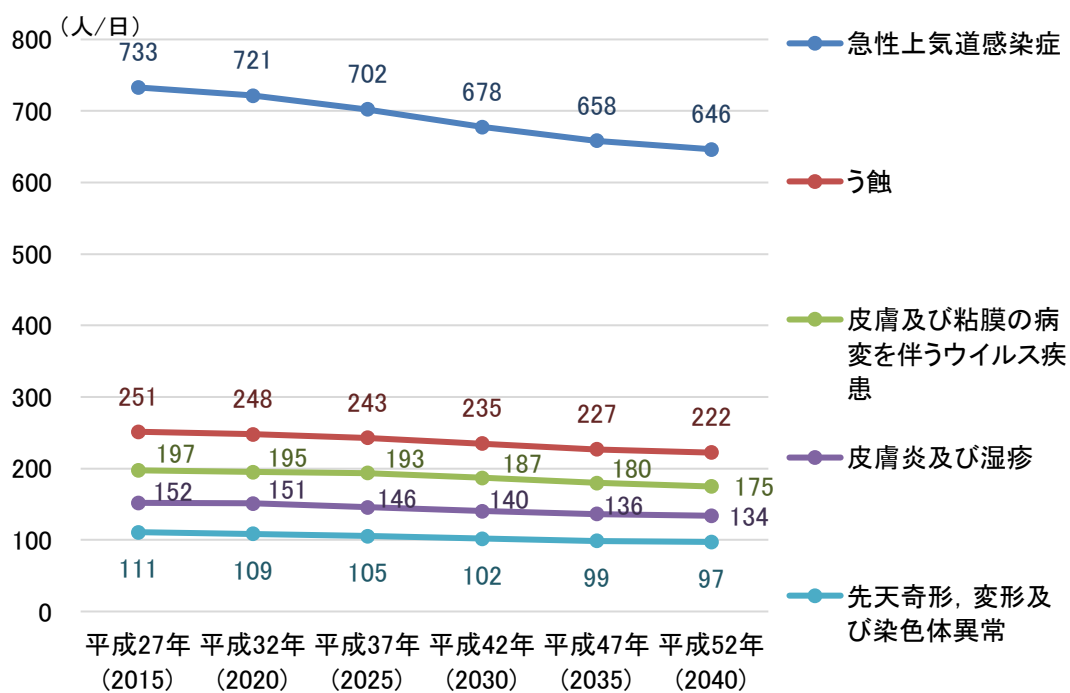
²¹ 急性上気道感染症…鼻やのど（上気道）が炎症を起こしている状態の総称（かぜ）。

²² 歯の補てつ…見た目や噛合わせを被せ物（クラウン）や入れ歯など人工の歯で補う治療法。

③ 0～14 歳

・0～14 歳の外来患者数の多い上位 5 疾患は、「急性上気道感染症」「う蝕」「皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患²³」「皮膚炎及び湿疹²⁴」「先天奇形、変形及び染色体異常」です。年少人口の減少に伴い、患者数も減少します。

図表 17：0～14 歳の外来患者数の推計（患者住所地ベース）：ICD10 中分類



出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区人口ビジョン（平成 27 年（2015 年）12 月）を参考に練馬区推計

²³ 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患…小児患者の手足口病や原因不明の発疹が主な疾患。

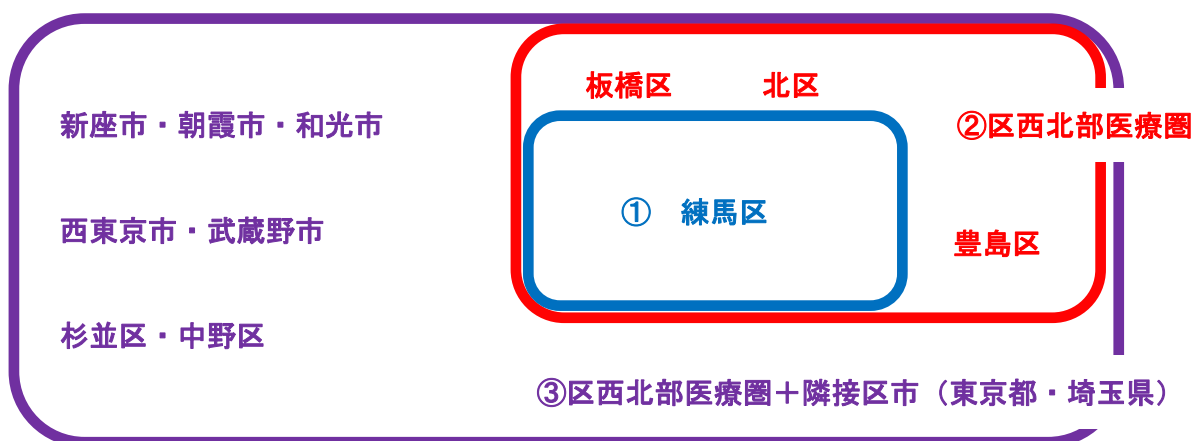
²⁴ 皮膚炎及び湿疹…皮膚表面に起こる炎症のこと。

(4) 区民が受診する医療機関の所在地の状況

区民が受診する医療機関の所在する地域について、平成 27 年 10 月の練馬区国民健康保険のレセプトデータにより調査しました。

今回の調査では、①区内、②区西北部医療圏（練馬区・豊島区・北区・板橋区、以下「医療圏」という。）、③医療圏＋隣接区市（東京都）²⁵＋隣接市（埼玉県）²⁶の 3 段階で分類しました。

【医療機関所在地域のイメージ図】



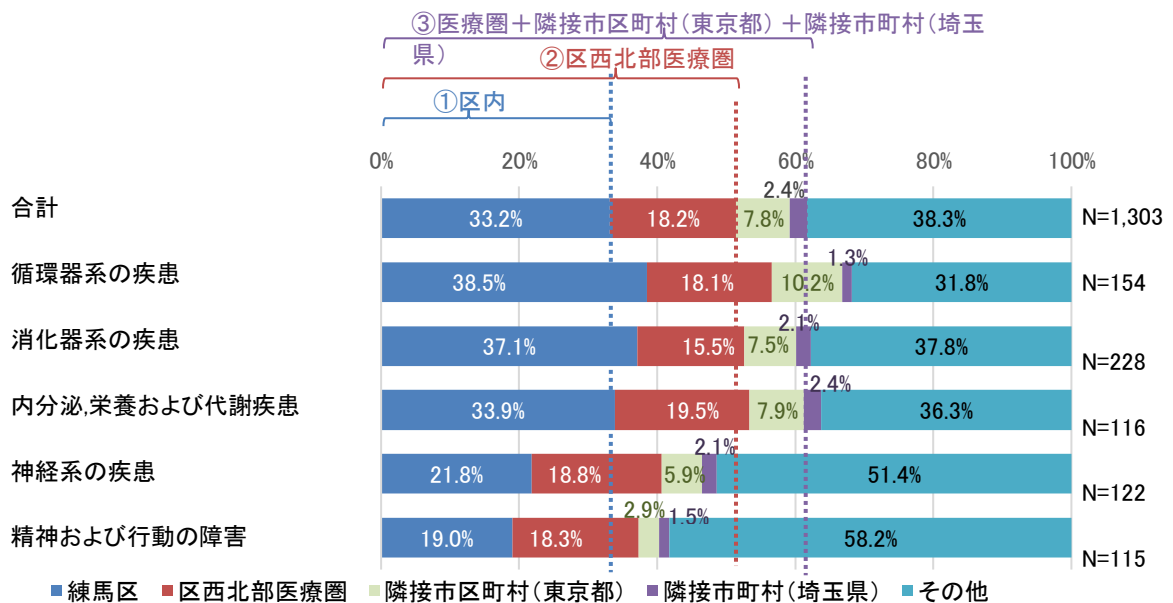
²⁵ 隣接区市（東京都）…練馬区に隣接している東京都の区市（西東京市・武蔵野市・杉並区・中野区）

²⁶ 隣接市（埼玉県）…練馬区に隣接している埼玉県の市（新座市・朝霞市・和光市）

ア 入院患者の医療機関所在地の状況

- ・ ①区内の範囲で見ると、入院患者のうち 33.2%が区内の医療機関で受診しており、66.8%が区外の医療機関で受診しています。
- ・ ②医療圏の範囲で見ると、入院患者のうち 51.5%が、医療圏内の医療機関で受診しており、48.5%が医療圏以外の医療機関で受診しています。
- ・ ③医療圏+隣接区市（東京都）+隣接市（埼玉県）の範囲で見ると、入院患者のうち 61.7%が③の範囲内で受診しており、38.3%が範囲外で受診しています。

図表 18：練馬区の入院患者の医療機関所在地の状況



出典：練馬区「国保レセプトデータ（平成 27 年（2015 年）10 月分）」

※上記国保レセプトデータは、国民健康保険の診療報酬明細を基にしたものであり、その他社会保険等は含まない

※N=100 以上のもののみ抜粋

| ICD10 大分類 | ICD10 中分類 | 主な疾患 |
|---------------|---|----------------------------|
| 循環器系の疾患 | 高血圧性疾患、心疾患(高血圧性のものを除く)(虚血性心疾患、その他の心疾患)、脳血管疾患(脳梗塞、その他の脳血管疾患)等 | 高血圧症、脳梗塞、狭心症、心不全、不整脈 |
| 消化器系の疾患 | う蝕、歯肉炎及び歯周疾患、胃潰瘍及び十二指腸潰瘍等 | 便秘症、大腸ポリープ、胃潰瘍、慢性胃炎、胃炎 |
| 内分泌,栄養および代謝疾患 | 甲状腺障害、糖尿病等 | 糖尿病、高脂血症、脂質異常症、2型糖尿病、脱水症 |
| 神経系の疾患 | パーキンソン病、アルツハイマー病、てんかん等 | 不眠症、てんかん、薬剤性パーキンソン症候群 |
| 精神および行動の障害 | 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害、気分[感情]障害(躁うつ病を含む)、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害等 | 統合失調症、うつ病、躁うつ病、認知症、双極性感情障害 |

※ICD10²⁷中分類の疾患のうち、主な疾患名を抜粋

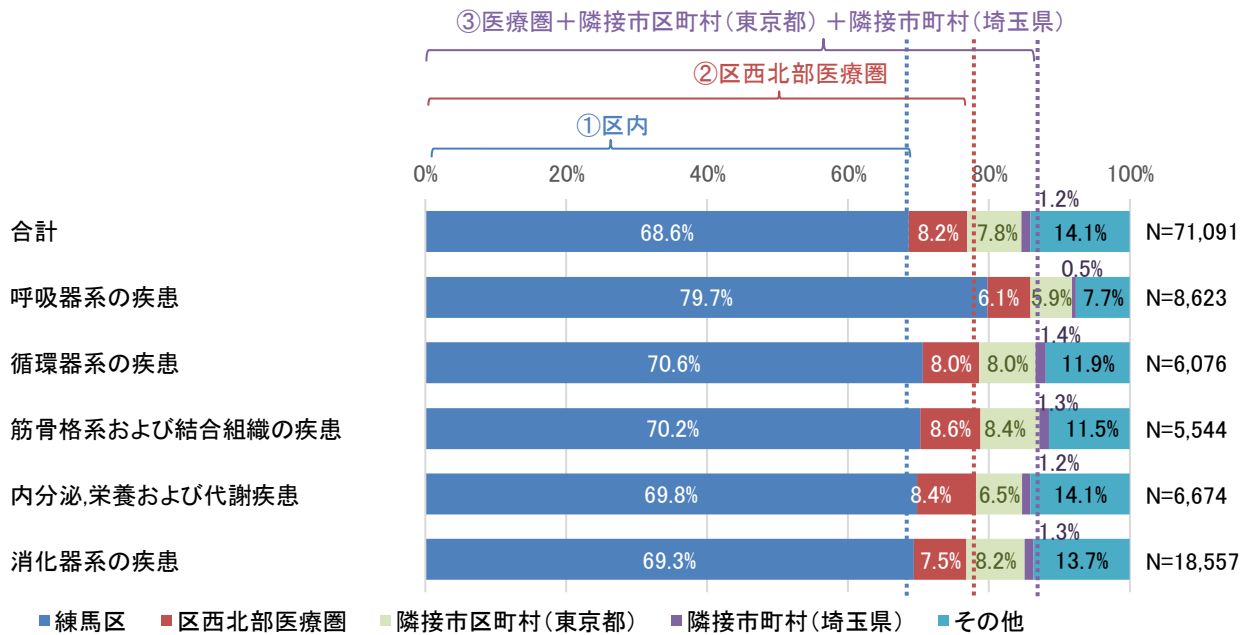
※疾患の並び順は、区内の受診患者数が多い順

27 脚注 8 参照

イ 外来患者の医療機関所在地の状況

- ・ ①区内の範囲で見ると、外来患者のうち 68.6%が区内の医療機関で受診しており、31.4%が区外の医療機関で受診しています。
- ・ ②医療圏の範囲で見ると、外来患者のうち 76.8%が、医療圏内の医療機関で受診しており、23.3%が医療圏以外の医療機関で受診しています。
- ・ ③医療圏+隣接区市（東京都）+隣接市（埼玉県）の範囲で見ると、外来患者のうち 85.9%が③の範囲内で受診しており、14.1%が範囲外で受診しています。

図表 19：練馬区の外来患者区外受診状況



出典：練馬区「国保レセプトデータ（平成 27 年（2015 年）10 月分）」

※N=5,000 以上のもののみ抜粋

| ICD10 分類 | ICD10 中分類 | 主な疾患 |
|----------------|---|--------------------------------------|
| 呼吸器系の疾患 | 急性上気道感染症、肺炎、急性気管支炎及び急性細気管支炎、気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患、喘息 等 | アレルギー性鼻炎、気管支喘息、急性気管支炎、急性上気道炎、急性咽頭喉頭炎 |
| 循環器系の疾患 | 高血圧性疾患、心疾患(高血圧性のものを除く)(虚血性心疾患、その他の心疾患)、脳血管疾患(脳梗塞、その他の脳血管疾患) 等 | 高血圧症、狭心症、本態性高血圧症、脳梗塞、心不全 |
| 筋骨格系および結合組織の疾患 | 炎症性多発性関節障害、脊柱障害、骨の密度及び構造の障害 等 | 腰痛症、骨粗鬆症、変形性膝関節症、肩関節周囲炎、変形性腰椎症 |
| 内分泌・栄養および代謝疾患 | 甲状腺障害、糖尿病 等 | 高脂血症、糖尿病、高コレステロール血症、高尿酸血症、脂質異常症 |
| 消化器系の疾患 | う蝕、歯肉炎及び歯周疾患、胃潰瘍及び十二指腸潰瘍 等 | 歯周炎、う蝕、慢性歯周炎、慢性胃炎、便秘症 |

※ICD10 中分類の疾患のうち、主な疾患名を抜粋

※疾患の並び順は、区内の受診患者数が多い順

4 主要死因別死亡数

図表 20 : 人口 10 万人対主要死因別死亡数 (上位 11) (人)

| | 東京都 | | 医療圏 | | 練馬区 | |
|----|---------------|-------|---------------|-------|---------------|--------|
| 1 | 悪性新生物 | 252.8 | 悪性新生物 | 259.7 | 悪性新生物 | 232.74 |
| 2 | 心疾患 (高血圧性を除く) | 126.7 | 心疾患 (高血圧性を除く) | 130.3 | 心疾患 (高血圧性を除く) | 112.49 |
| 3 | その他の全死因 | 96.4 | その他の全死因 | 93.7 | その他の全死因 | 91.74 |
| 4 | 肺炎 | 72.8 | 肺炎 | 72.7 | 肺炎 | 66.14 |
| 5 | 脳血管疾患 | 70.3 | 脳血管疾患 | 72.0 | 脳血管疾患 | 63.23 |
| 6 | 老衰 | 46.3 | 老衰 | 46.8 | 老衰 | 40.82 |
| 7 | 不慮の事故 | 20.3 | 不慮の事故 | 22.9 | 不慮の事故 | 19.79 |
| 8 | 神経系の疾患 | 19.9 | 神経系の疾患 | 20.6 | 神経系の疾患 | 19.51 |
| 9 | 自殺 | 18.3 | 自殺 | 20.0 | 自殺 | 19.23 |
| 10 | 腎不全 | 13.9 | 肝疾患 | 13.5 | 大動脈瘤及び解離 | 13.01 |
| 11 | 肝疾患 | 13.2 | 大動脈瘤及び解離 | 13.3 | 肝疾患 | 10.79 |

出典：東京都「人口動態統計平成 26 年 (2014 年)」より作成

II. 区の医療施設の現状

1 病院・診療所・歯科診療所・薬局の施設数

- ・区内には 19 の一般病院と 22 の有床診療所があります。
- ・病院数を人口 10 万人あたりの数で比較すると、区は 2.6 であるのに対して、東京都は 4.9、医療圏は 5.1 であり、東京都・医療圏と比較して区は半数程度です。特に一般病院の数が少ない状況です。
- ・一般診療所数を人口 10 万人あたりの数で比較すると、区は 76.1 であるのに対して、東京都は 96.8、医療圏は 87.5 であり、東京都・医療圏と比較して区は若干少ない状況です。
- ・歯科診療所を人口 10 万人あたりの数で比較すると、区は 63.8 であるのに対して、東京都は 80.1、医療圏は 73.6 であり、東京都・医療圏と比較して区は若干少ない状況です。
- ・薬局を人口 10 万人あたりの数で比較すると、区は 42.7 であるのに対して、東京都は 48.6、医療圏は 48.3 であり、東京都・医療圏と比較して区は若干少ない状況です。

図表 21：人口 10 万人あたり医療施設数

(単位：箇所)

| 施設 | 東京都 | 区西北部医療圏 | 練馬区 | 実数 |
|---------|------|---------|------|-----|
| 病院 | 4.9 | 5.1 | 2.6 | 19 |
| 一般病院 | 4.5 | 4.9 | 2.4 | 17 |
| 精神科病院 | 0.4 | 0.2 | 0.3 | 2 |
| 一般診療所 | 96.8 | 87.5 | 76.1 | 547 |
| うち有床診療所 | 3.3 | 3.5 | 3.1 | 22 |
| 歯科診療所 | 80.1 | 73.6 | 63.8 | 459 |
| 薬局 | 48.6 | 48.3 | 42.7 | 307 |

出典：東京都および医療圏：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）医療施設調査」、住民基本台帳人口平成 26 年（2014 年）1 月 1 日現在
 練馬区：関東厚生局「保険医療機関・保険薬局の指定一覧（平成 28 年（2016 年）10 月 1 日現在）」、住民基本台帳人口平成 28 年（2016 年）1 月 1 日現在

2 病院・診療所の病床数

・区内の病院には一般・療養病床が2,106床あります。病床機能別では、急性期が52.9%と最も多く、今後の高齢化に伴い需要の高まる回復期は11.9%と少なくなっています。

図表 22：練馬区医療機関（病院）

| | 病院名 | 全体 | | | | | 計 | 所在地 |
|----|-----------------------------|------|-----|------|----|-----|------|-----------------|
| | | 一般 | 療養 | 精神 | 結核 | 感染症 | | |
| 1 | 大泉生協病院 | 94 | | | | | 94 | 練馬区東大泉 6-3-3 |
| 2 | 久保田産婦人科病院 | 30 | | | | | 30 | 練馬区東大泉 3-29-10 |
| 3 | 桜台病院 | | 86 | | | | 86 | 練馬区豊玉南 1-20-15 |
| 4 | 島村記念病院 | 42 | 44 | | | | 86 | 練馬区関町北 2-4-1 |
| 5 | 慈雲堂病院 | 30 | | 513 | | | 543 | 練馬区関町南 4-14-53 |
| 6 | 順天堂大学医学部附属練馬病院 | 400 | | | | | 400 | 練馬区高野台 3-1-10 |
| 7 | スズキ病院 | 99 | | | | | 99 | 練馬区栄町 7-1 |
| 8 | 関町病院 | | 47 | | | | 47 | 練馬区関町北 1-6-19 |
| 9 | 高松病院 | 31 | | | | | 31 | 練馬区高松 6-4-23 |
| 10 | 田中脳神経外科病院 | 58 | | | | | 58 | 練馬区関町南 3-9-23 |
| 11 | 東海病院 | | 23 | | | | 23 | 練馬区中村北 2-10-11 |
| 12 | 東京聖徳病院 | | 178 | | | | 178 | 練馬区北町 3-7-19 |
| 13 | 練馬駅リハビリテーション病院 | | 150 | | | | 150 | 練馬区練馬 1-17-1 |
| 14 | 練馬総合病院 | 224 | | | | | 224 | 練馬区旭丘 1-24-1 |
| 15 | 練馬光が丘病院 | 342 | | | | | 342 | 練馬区光が丘 2-11-1 |
| 16 | 東大泉病院 | | 86 | | | | 86 | 練馬区東大泉 7-36-10 |
| 17 | 保谷病院 | 42 | | | | | 42 | 練馬区南大泉 4-50-15 |
| 18 | 大泉病院 | | | 240 | | | 240 | 練馬区大泉学園町 6-9-1 |
| 19 | 陽和病院 | | | 328 | | | 328 | 練馬区大泉町 2-17-1 |
| 20 | ねりま健育会病院 (平成 29 年 4 月開院) | | 100 | | | | 100 | 練馬区大泉学園町 7-3-28 |
| | 合計 | 1392 | 714 | 1081 | | | 3187 | |

出典：東京都「医療機関名簿 平成 28 年」等から作成

図表 23：練馬区の病床機能²⁸別病床数

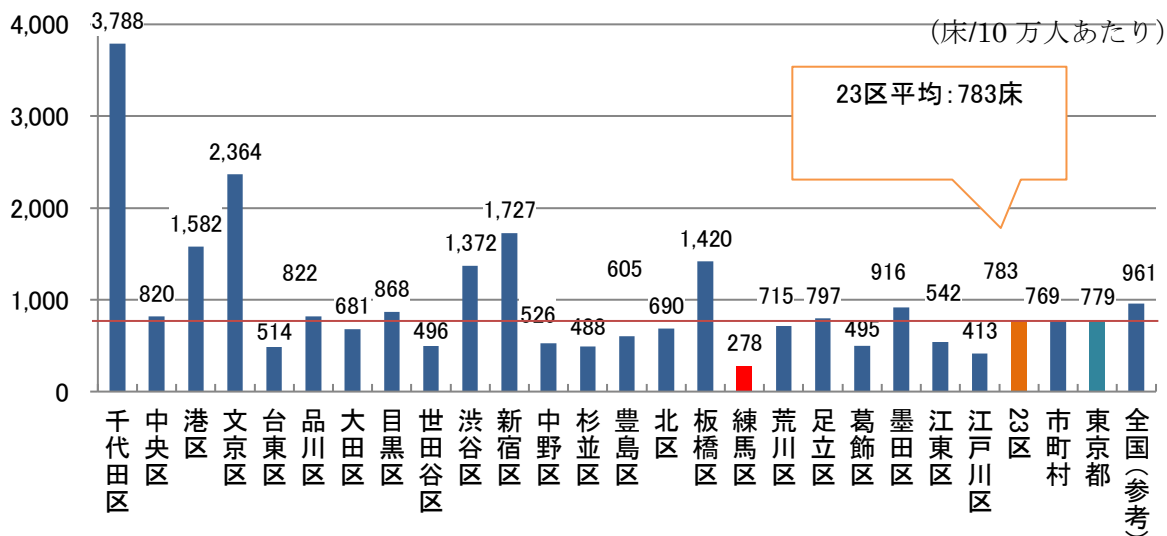
| | | 許可病床数 | | | | 病床機能別病床数 | | | |
|--------|----------------|----------|----------|------------|-------|-----------|-------|-------|-------|
| | | 一般 病床 | 療養 病床 | うち 医療療養 | 計 | 高度 急性期 | 急性期 | 回復期 | 慢性期 |
| 1 | スズキ病院 | 99 | 0 | 0 | 99 | 0 | 99 | 0 | 0 |
| 2 | 田中脳神経外科病院 | 58 | 0 | 0 | 58 | 0 | 58 | 0 | 0 |
| 3 | 慈雲堂病院 | 30 | 0 | 0 | 30 | 0 | 0 | 0 | 30 |
| 4 | 東京聖徳病院 | 0 | 178 | 0 | 178 | 0 | 0 | 0 | 178 |
| 5 | 練馬総合病院 | 224 | 0 | 0 | 224 | 0 | 224 | 0 | 0 |
| 6 | 練馬駅リハビリテーション病院 | 0 | 150 | 150 | 150 | 0 | 0 | 150 | 0 |
| 7 | 練馬光が丘病院 | 342 | 0 | 0 | 342 | 6 | 336 | 0 | 0 |
| 8 | 桜台病院 | 0 | 86 | 16 | 86 | 0 | 0 | 0 | 86 |
| 9 | 順天堂大学医学部附属練馬病院 | 400 | 0 | 0 | 400 | 206 | 194 | 0 | 0 |
| 10 | 島村記念病院 | 42 | 44 | 44 | 86 | 0 | 0 | 42 | 44 |
| 11 | 久保田産婦人科病院 | 30 | 0 | 0 | 30 | 0 | 30 | 0 | 0 |
| 12 | 東海病院 | 0 | 23 | 23 | 23 | 0 | 0 | 0 | 23 |
| 13 | 保谷病院 | 42 | 0 | 0 | 42 | 0 | 42 | 0 | 0 |
| 14 | 関町病院 | 0 | 47 | 47 | 47 | 0 | 0 | 0 | 47 |
| 15 | 大泉生協病院 | 94 | 0 | 0 | 94 | 0 | 47 | 47 | 0 |
| 16 | 東大泉病院 | 0 | 86 | 86 | 86 | 0 | 0 | 0 | 86 |
| 17 | 高松病院 | 31 | 0 | 0 | 31 | 0 | 31 | 0 | 0 |
| 合計 | | 1,392 | 614 | 366 | 2,006 | 212 | 1,061 | 239 | 494 |
| 4機能別割合 | | | | | | 10.6% | 52.9% | 11.9% | 24.6% |

出典：東京都地域医療構想調整会議資料

²⁸ 病床機能…病床機能報告における病床の機能4区分には、急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて診療密度が特に高い医療を提供する高度急性期機能、急性期の患者に対し、状態の早期安定化にむけて医療を提供する急性期機能、急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する回復期機能、長期にわたり療養が必要な患者が入院する慢性期機能があります。

- ・一般病床数を人口10万人あたりの数で比較すると、区は227.2であるのに対して、東京都は645.4、医療圏は574.4であり、東京都・医療圏と比較して区は半数に満たない状況です。
- ・療養病床数を人口10万人あたりの数で比較すると、区は86.8であるのに対して、東京都は173.5、医療圏は198.6であり、東京都・医療圏と比較して半数程度です。

図表 24:人口10万人あたり病院における一般・療養病床数の比較(平成28年6月1日現在)



出典：東京都福祉保健局「平成28年(2016年)医療機関名簿」、住民基本台帳人口「平成28年(2016年)6月1日現在」

図表 25:人口10万人あたり病院・診療所の病床数

(単位:床)

| | 東京都 | 区西北部医療圏 | 練馬区 |
|------|-------|---------|-------|
| 一般病床 | 645.4 | 574.4 | 227.2 |
| 病院 | 614.5 | 545.1 | 193.6 |
| 診療所 | 30.9 | 29.3 | 33.7 |
| 療養病床 | 173.5 | 198.6 | 86.8 |
| 病院 | 172.0 | 196.1 | 85.4 |
| 診療所 | 1.5 | 2.5 | 1.4 |

出典：東京都および医療圏：厚生労働省「平成26年(2014年)医療施設調査」、住民基本台帳人口平成26年(2014年)1月1日現在
 練馬区：関東厚生局「保険医療機関・保険薬局の指定一覧(平成28年(2016年)10月1日現在)」、住民基本台帳人口平成28年(2016年)1月1日現在

3 診療所の標榜診療科²⁹数

- ・人口 10 万人あたりの診療所の標榜診療科数を比較すると、東京都、医療圏に対して全体的に各標榜診療数が少ない状況です。
- ・小児科を標榜している診療所の数は、東京都を上回っています。

図表 26：人口 10 万人あたり診療所の標榜診療科数
(単位：箇所)

| | 東京都 | 区西北部医療圏 | 練馬区 |
|---------|------|---------|------|
| 内科 | 58.4 | 51.4 | 47.1 |
| 皮膚科 | 18.1 | 18.3 | 17.0 |
| 小児科 | 19.3 | 25.5 | 25.3 |
| 精神科 | 8.9 | 5.9 | 4.2 |
| 整形外科 | 11.2 | 11.2 | 10.4 |
| 眼科 | 9.6 | 7.8 | 7.2 |
| 耳鼻いんこう科 | 6.6 | 6.6 | 6.1 |
| 産婦人科 | 3.1 | 2.7 | 2.1 |
| 産科 | 0.3 | 0.6 | 0.3 |

出典：関東厚生局「保険医療機関・保険薬局の指定一覧（平成 28 年（2016 年）10 月 1 日現在）」
住民基本台帳人口平成 28 年（2016 年）1 月 1 日現在

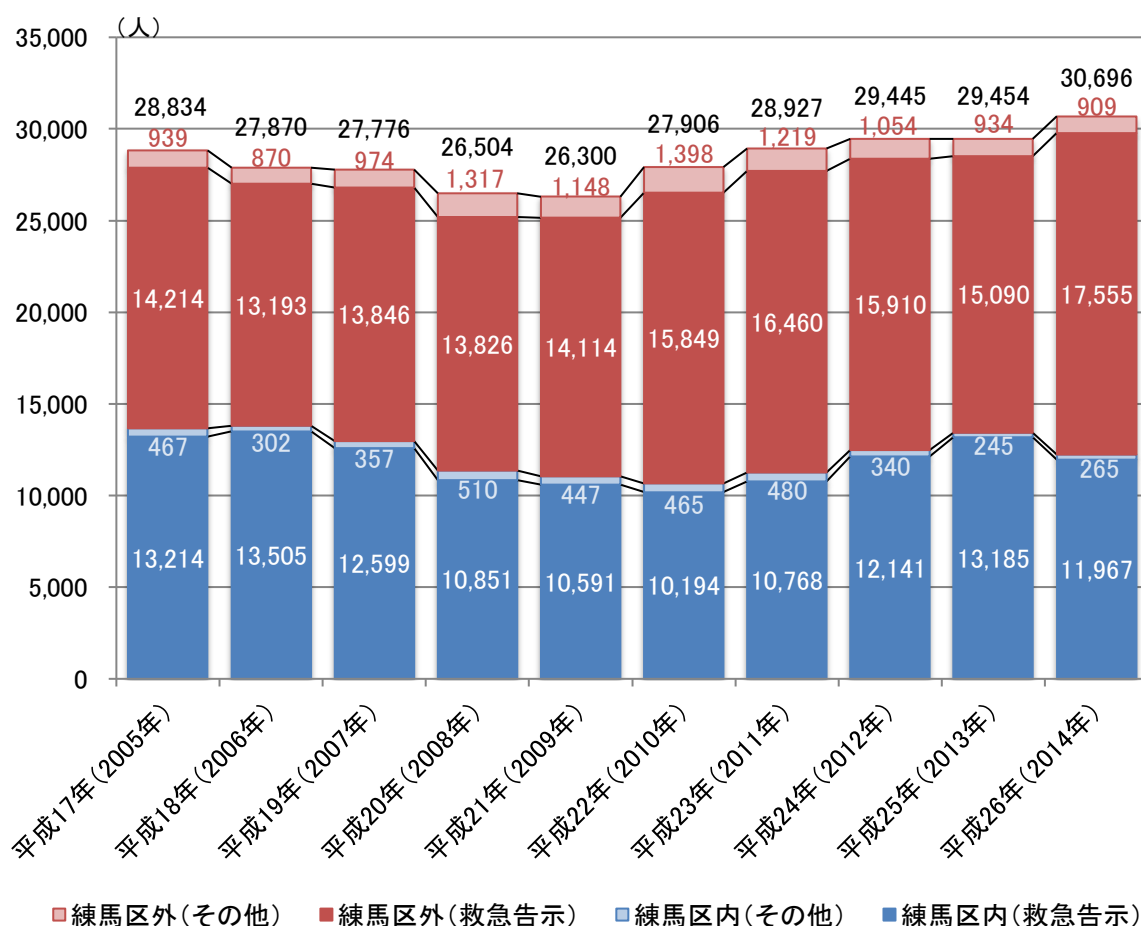
²⁹ 標榜診療科…病院や診療所が外部に広告できる診療科名のこと。

III. 救急医療

1 搬送医療機関別搬送件数

- ・ 区の救急搬送件数は平成 21 年（2009 年）を境に増加に転じ、それ以降毎年増加しています。
- ・ 約 6 割が区外の医療機関へ搬送されています。
- ・ 区内の救急告示医療機関³⁰搬送件数は、平成 22 年（2010 年）から平成 25 年（2013 年）まで増加傾向にありましたが、平成 26 年（2014 年）には減少しました。
- ・ 区外の救急告示医療機関搬送件数は、平成 23 年（2011 年）から平成 25 年（2013 年）まで減少傾向にありましたが、平成 26 年（2014 年）には増加しました。

図表 27：練馬区の搬送医療機関別搬送件数の推移



出典：東京消防庁

³⁰ 救急告示医療機関…救急病院等を定める省令（救急患者を受け入れる要件）に基づき、知事が認定した医療機関

図表 28：練馬区内の救急医療機関

| | 医療機関 | 救急告示 医療機関 | 東京都指定 二次救急医療機関 ³¹ | 病床数 |
|---|----------------|--------------|---------------------------------|-----|
| 1 | スズキ病院 | ○ | ○ | 99 |
| 2 | 練馬総合病院 | ○ | ○ | 224 |
| 3 | 練馬光が丘病院 | ○ | ○ | 342 |
| 4 | 順天堂大学医学部附属練馬病院 | ○ | ○ | 400 |
| 5 | 田中脳神経外科病院 | ○ | ○ | 58 |
| 6 | 久保田産婦人科病院 | ○ | | 30 |
| 7 | 川満外科 | ○ | ○ | 19 |
| 8 | 大泉生協病院 | ○ | ○ | 94 |
| 9 | 島村記念病院 | ○ | | 86 |

出典：東京都福祉保健局ホームページ（平成 28 年 10 月 1 日現在）

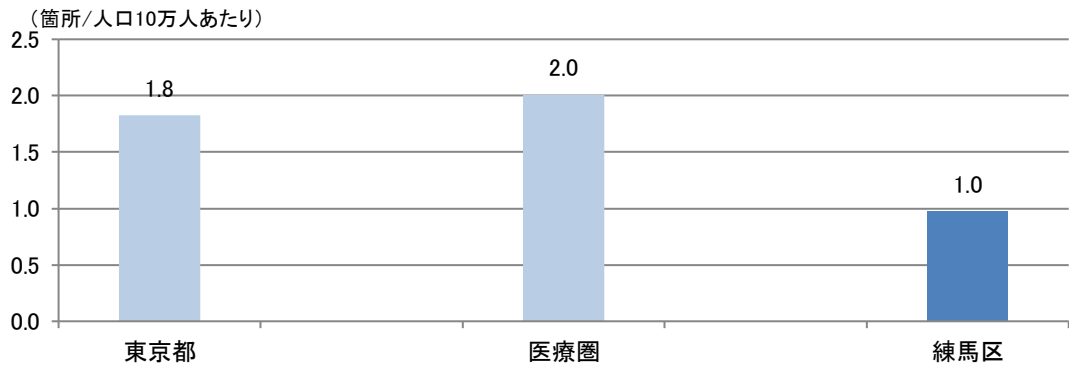
※島村記念病院は、平成 29 年 3 月 15 日から救急告示を撤回。

³¹ 二次救急医療機関…原則として、2 科（内科系及び外科系）、3 科（内科系、小児科又は産科及び外科系）、又は 4 科（内科系、産科、小児科及び外科系）の初療及び入院・手術等の専門的な診療を行い、患者の受入れ可能な救急用病床を知事の指定に基づき確保している医療機関

2 二次救急医療機関数

- 東京都指定二次救急医療機関の人口あたりの施設数では、東京都・医療圏と比べて、区は約半分の状況です。

図表 29：人口10万人あたりの二次救急医療機関数

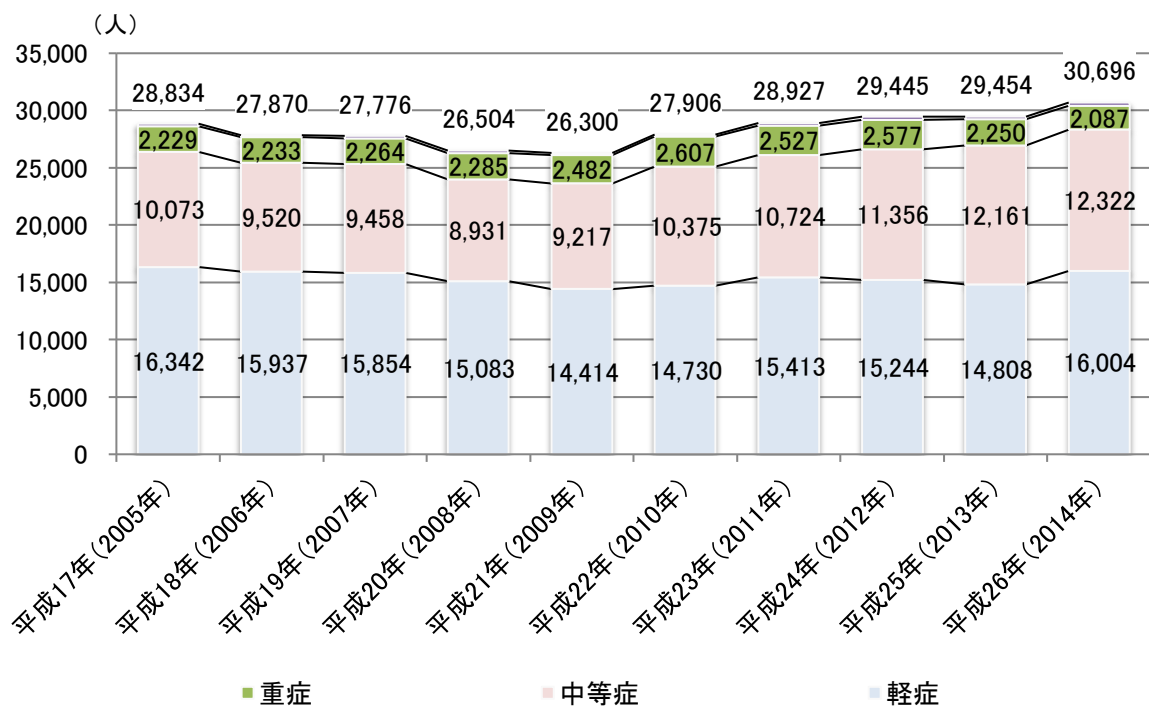


出典：東京都「休日・全夜間診療事業実施医療機関一覧（東京都指定二次救急医療機関一覧）（平成28年（2016年）10月1日現在）」、住民基本台帳人口平成28年（2016年）1月1日現在

3 重症度別搬送件数

- ・ 救急搬送患者のうち、重症³²の患者数は、平成 22 年まで増加し、その後は減少傾向です。
 - ・ 中等症³³の患者は、平成 20 年まで減少していましたが、平成 22 年から増加に転じています。
 - ・ 軽症³⁴の患者は、平成 21 年（2009 年）まで減少し、それ以降は、増減を繰り返しながら 15,000 人前後で推移していましたが、平成 26 年（2014 年）には増加しました。
- ※重症・中等症・軽症は、搬送先の医師の診察による判断

図表 30：練馬区の重症度別搬送件数の推移



出典：東京消防庁

³² 重症…傷病の程度が3週間以上の入院を必要とするもの

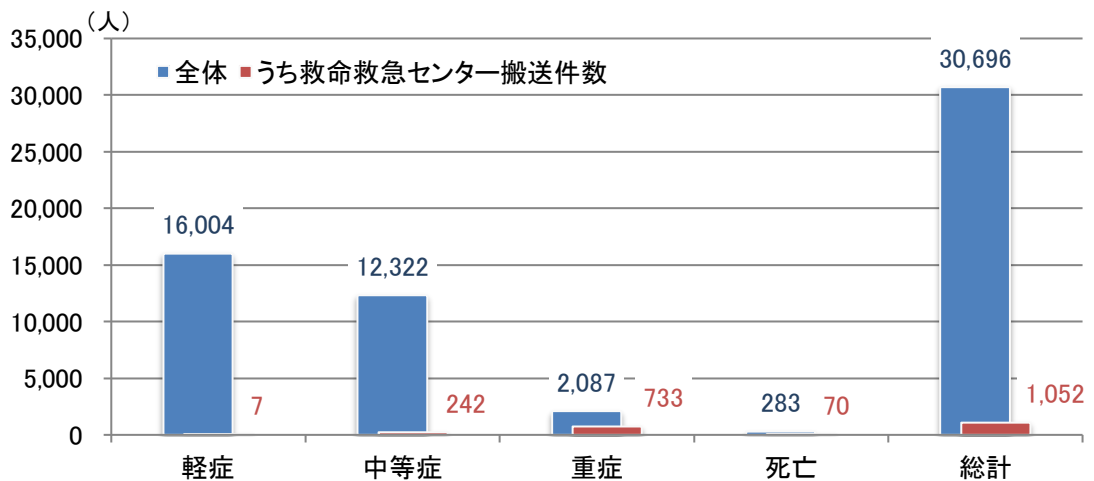
³³ 中等症…傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

³⁴ 軽症…傷病の程度が入院加療を必要としないもの

4 救命救急センターとその他医療機関別の重症度別搬送件数

- ・ 練馬区内には救命救急センター³⁵がないため、救命救急センターで治療が必要となった場合は、近隣の救命救急センターに搬送され治療を受けます。
 - ・ 平成 26 年には 1,052 人が、区外の救命救急センターに搬送されています。約 8 割は、重症の患者です。
- ※重症・中等症・軽症は、搬送先の医師の診察による判断

図表 31：練馬区の重症度別搬送件数（平成 26 年（2014 年））



搬送医療機関別搬送人員

| 搬送先 | 搬送人員 | 割合 |
|----------|------|-------|
| 板橋区 | 661 | 62.8% |
| 三鷹市・武蔵野市 | 258 | 24.5% |
| その他都内 | 133 | 12.6% |
| 合計 | 1052 | 100% |

小数点以下の端数処理により、割合の合計は 100%にはならない。

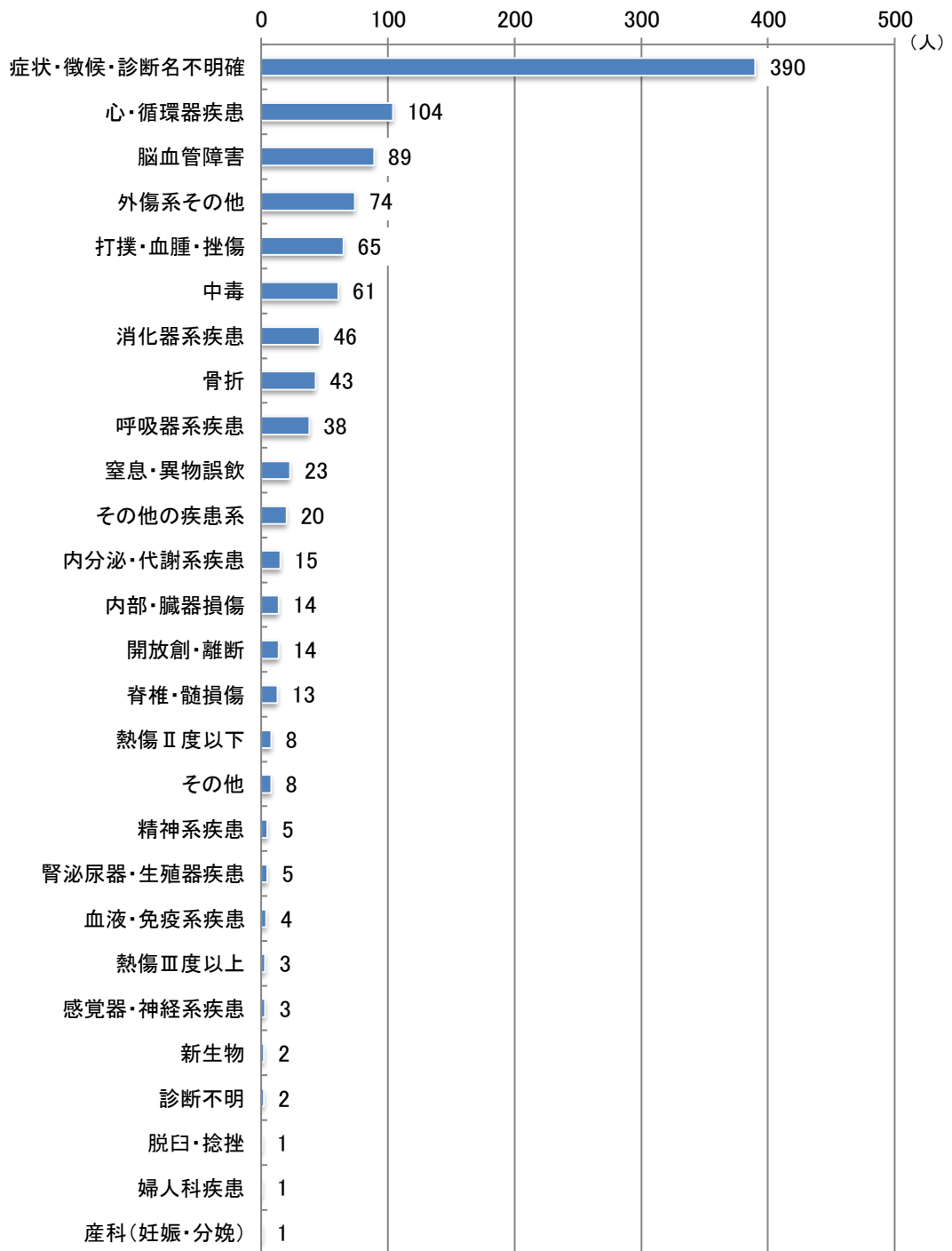
出典：東京消防庁

³⁵ 救命救急センター…厚生労働大臣の定めを受けて、脳卒中や急性心筋梗塞、多発外傷、全身熱傷等、二次救急病院では対応困難な重篤な患者、複数の専門領域にわたる病状を有する患者に対し、専門的な救急医療を提供する医療機関（三次救急を提供する医療機関）。

5 救命救急センターの疾患別搬送件数

・ 区内の患者の救命救急センターへの搬送件数 1,052 件を疾患別に見ると、「診断名不明確」が最も多く、次いで「心・循環器疾患」、「脳血管障害」の順となっています。

図表 32：練馬区の救命救急センター搬送件数（疾患別：平成 26 年（2014 年））



※救急隊は医師の確定診断を待つことなく引き揚げるが多いため、多くは初診時の医師の診断名。

出典：東京消防庁

6 区と医療圏の小児救急医療の提供体制

・夜間や休日に対応している小児二次救急医療機関は、区内に2か所あります。区内に東京都こども救命センター³⁶の配置はなく、医療圏では、日本大学医学部附属板橋病院の1か所です。

図表 33：小児救急医療の提供体制

| 区分 | | 施設名 | |
|--------|-----------------------------|---|---|
| | | 練馬区 | 同一医療圏（豊島区・北区・板橋区） |
| 小児救急医療 | 東京都こども救命センター | — | ・日本大学医学部附属板橋病院 |
| | 夜間や休日に対応している東京都内の小児二次救急医療機関 | ・練馬光が丘病院 ・順天堂大学医学部附属練馬病院 | ・東京都立大塚病院 ・東京北医療センター ・日本大学板橋病院 ・豊島病院 ・帝京大学医学部附属病院 |
| | 夜間や休日に対応している東京都内の小児初期救急医療機関 | ・練馬休日急患診療所(練馬区夜間救急こどもクリニック) ・石神井休日急患診療所 ・※練馬区は上記の他に「練馬区小児初期救急医療事業」を実施し、順天堂大学医学部附属練馬病院、練馬光が丘病院、島村記念病院に委託している | ・豊島区池袋休日診療所 ・豊島（平日準夜間）こども救急 ・豊島区長崎休日診療所 ・北区休日診療所 ・東京北医療センター ・板橋区平日夜間応急こどもクリニック |

《練馬区の小児救急患者推移》

(人)

| 医療機関 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|-----------------|--------|--------|--------|
| 練馬区夜間救急こどもクリニック | 4,511 | 4,305 | 4,073 |
| 練馬休日急患診療所 | 3,066 | 2,986 | 2,767 |
| 石神井休日急患診療所 | 4,295 | 3,996 | 3,934 |
| 順天堂大学医学部附属練馬病院 | 3,729 | 3,512 | 3,478 |
| 練馬光が丘病院 | 4,528 | 5,392 | 5,104 |
| 島村記念病院 | 520 | 501 | 264 |
| 計 | 20,649 | 20,692 | 19,620 |

出典：東京都こども救命センター；東京都福祉保健局ホームページ「三次救急医療（東京都こども救命センター）」

夜間や休日に対応している東京都内の小児二次救急医療機関；東京都福祉保健局ホームページ「二次救急医療（休日・全夜間診療事業（小児科）参画医療機関）（平成28年（2016年）4月現在）」

夜間や休日に対応している東京都内の小児初期救急医療機関；東京都福祉保健局ホームページ「夜間や休日に対応している東京都内の小児初期救急医療機関一覧（平成28年（2016年）7月現在）」

³⁶ 東京都こども救命センター…東京都において、他の医療機関では救命治療の継続が困難な小児重篤患者の受入要請があった場合に、患者を必ず受け入れ、迅速かつ適切な救命治療を行う施設。

IV. 災害時の医療

1 震災発生時の被害想定

- ・多摩直下地震が発生した場合の区の想定負傷者数（東京都公表資料より）では、重傷者が585人発生するとされています。

図表 34：多摩直下地震（M7.3） 冬5時、風速8m/秒時の想定負傷者数

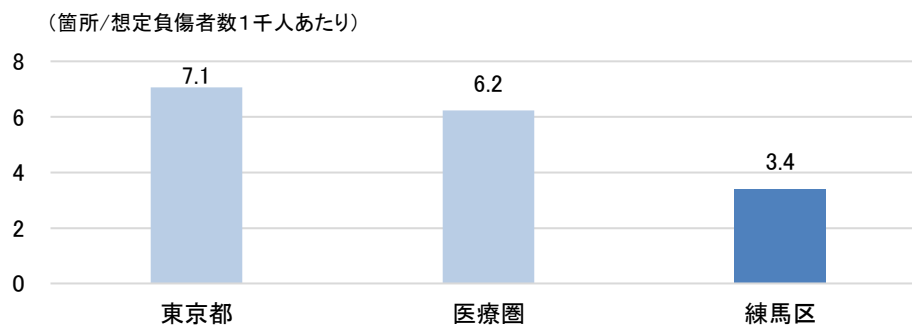
| | 東京都 | 医療圏 | 練馬区 |
|-------|----------|---------|--------|
| 負傷者 | 114,658人 | 14,512人 | 5,389人 |
| うち重傷者 | 11,319人 | 1,284 | 585人 |

出典：東京都防災ホームページ「首都直下地震等による東京の被害想定（平成24年（2012年）4月18日公表）」

2 被害想定に対する災害拠点病院数の状況

- ・災害時の想定負傷者あたりの東京都災害拠点病院指定医療機関³⁷の数を、東京都・医療圏と比べると、区の医療機関は約半数の状況です。

図表 35：想定負傷者1千人あたりの東京都災害拠点病院指定医療機関数



³⁷ 災害拠点病院指定医療機関…災害時において主に重症者の収容・治療を行う病院

図表 36：東京都災害拠点病院一覧

| 二次保健医療圏 | 施設名 | 病床数 |
|---------|-----------------------------|-------|
| 区西北部 | 東京都立大塚病院 | 508 |
| | 東京北医療センター | 280 |
| | 日本大学医学部附属板橋病院 | 1,037 |
| | 帝京大学医学部附属病院 (地域災害拠点中核病院) | 1,154 |
| | 東京都健康長寿医療センター | 550 |
| | 東京都保健医療公社豊島病院 | 470 |
| | 練馬光が丘病院 | 342 |
| | 順天堂大学医学部附属練馬病院 | 400 |

出典：東京都防災ホームページ「首都直下地震等による東京の被害想定（平成24年（2012年）4月18日公表）」東京都災害拠点病院；東京都福祉保健局ホームページ「東京都災害拠点病院（平成26年（2014年）9月15日）」

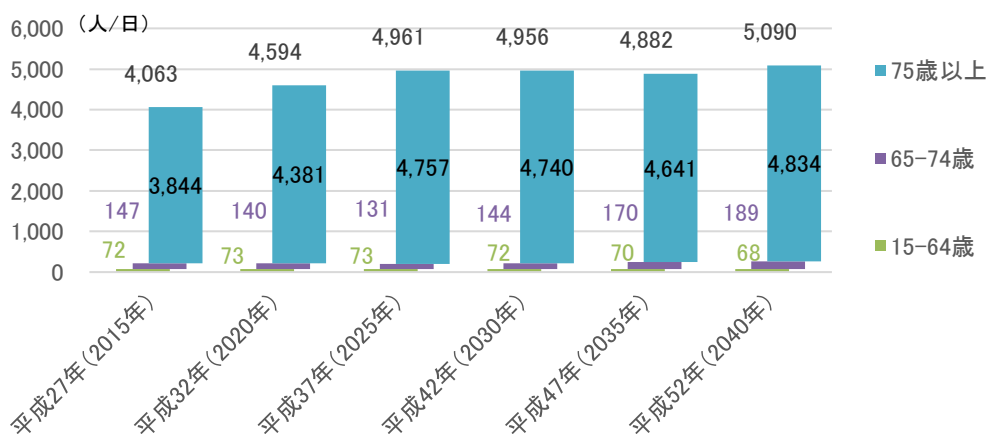
V. 在宅医療

1 在宅医療の患者数

(1) 訪問診療対象患者数の推計

- ・ 区の訪問診療対象患者数は、平成 52 年（2040 年）には、平成 27 年（2015 年）に比べて 1 千人程度増加すると推計されます。そのほとんどが 75 歳以上の患者です。

図表 37：練馬区の訪問診療対象患者数の推計（患者住所地ベース）



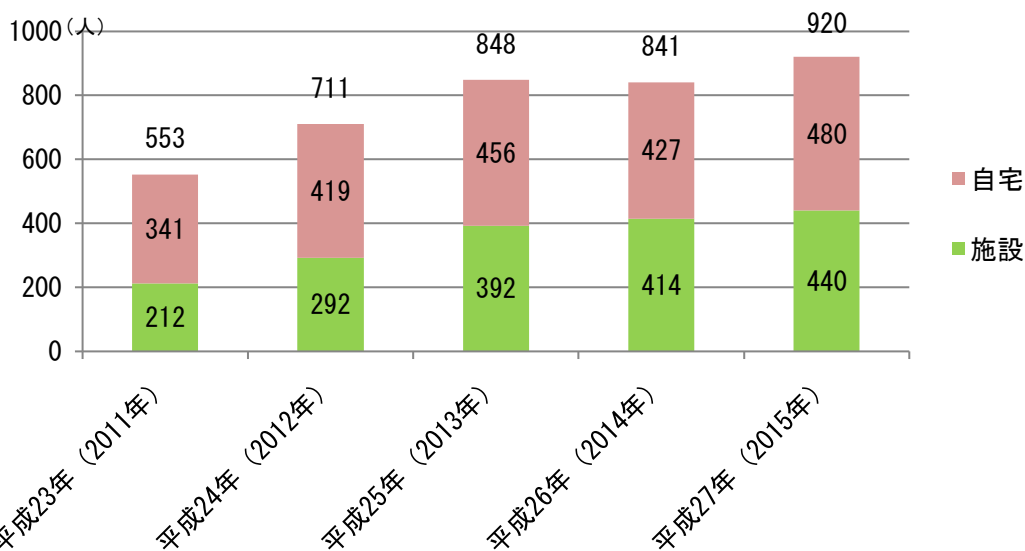
※区の0～14歳の訪問診療対象患者は0人/日

出典：厚生労働省「医療計画作成支援データブック「医療圏内患者の受療圏の把握及び地域医療指標の評価」ツール」、練馬区人口ビジョン（平成27年（2015年）12月）より練馬区推計

(2) 看取り件数の推移

・在宅での看取り件数は、増加傾向にあり、自宅・施設ともに増加しています。

図表 38：在宅での看取り件数の推移



出典：練馬区「死亡小票データ (2011年1月1日～2015年12月31年の5カ年分)」

図表 39：看取り件数の推計



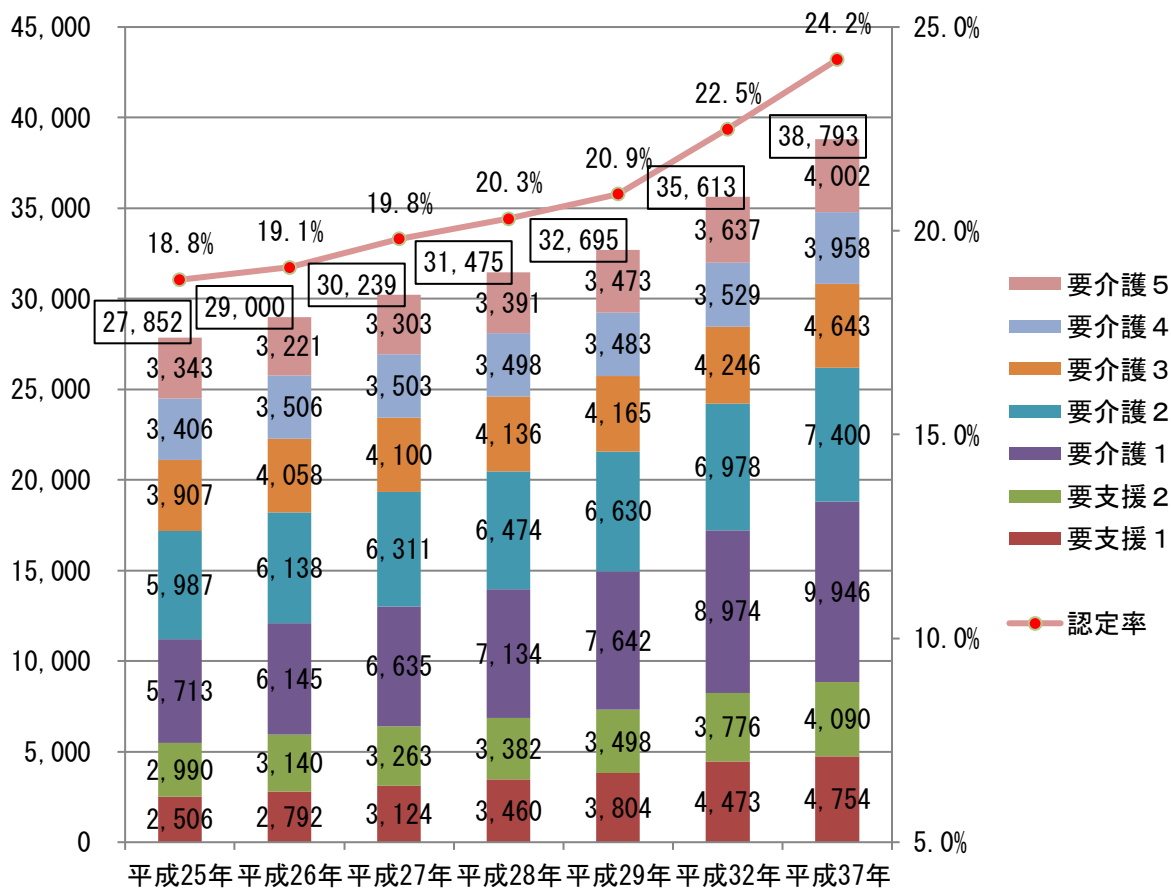
出典：練馬区「死亡小票データ (2011年1月1日～2015年12月31年の5カ年分)」、練馬区人口ビジョン (平成27年 (2015年) 12月) および国立社会保障・人口問題研究所の将来の生存率を参考に練馬区推計

(3) 要支援・要介護認定者数の将来推計

・ 区の要支援・要介護認定者数は、増加の一途をたどり、平成 37 年には約 39,000 人になると推計されます。

図表 40：要介護認定者数の推移（第 1号被保険者）

（単位：人、％）



出典：練馬区「第6期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」

2 在宅医療関係施設

在宅医療関係施設の人口 10 万人あたりの施設数を比べると、

- ・在宅療養支援診療所³⁸は、東京都・医療圏と比べて、区は若干少ない状況です。
- ・在宅療養支援病院³⁹は、東京都・医療圏と比べて、区は半数程度となっています。
- ・在宅療養後方支援病院⁴⁰は、東京都・医療圏と比べて、区は半数程度となっています。
- ・在宅療養支援歯科診療所⁴¹は、東京都と比べて若干少ないですが、医療圏と比べると多い状況です。
- ・在宅患者訪問薬剤管理指導料⁴²算定薬局は、東京都・医療圏と比べて、区の方が若干少ない状況です。

図表 41：在宅医療関係施設の人口 10 万人あたり施設数

(単位：箇所)

| | 東京都 | 医療圏 | 練馬区 | 実数・病院名 |
|-------------------|-------|-------|-------|-------------------------------------|
| 在宅療養支援診療所 | 51.9 | 60.7 | 49.0 | 76 施設 |
| 在宅療養支援病院 | 3.2 | 4.2 | 1.9 | 3病院 スズキ病院 田中脳神経外科病院 大泉生協病院 |
| 在宅療養後方支援病院 | 1.0 | 0.9 | 0.6 | 1病院 練馬総合病院 |
| 在宅療養支援歯科診療所 | 19.6 | 17.4 | 19.3 | 30 施設 |
| 在宅患者訪問薬剤管理指導料算定薬局 | 168.1 | 165.7 | 158.7 | 246 施設 |

出典：関東厚生局「平成 28 年（2016 年）6 月 1 日現在の届出」、平成 28 年（2016 年）住民基本台帳高齢者人口

³⁸ 在宅療養支援診療所…在宅療養を希望する患者に、その地域で主たる責任をもって定期的に訪問診療を行う診療所。地方厚生(支)局長に届出をして認可される診療所の施設基準のひとつ。

³⁹ 在宅療養支援病院…在宅療養を希望する患者に、その地域で主たる責任をもって定期的に訪問診療を行う病院。地方厚生(支)局長に届出をして認可される病院の施設基準のひとつ。

⁴⁰ 在宅療養後方支援病院…在宅医療を提供する医療機関（在宅療養支援病院や在宅療養支援診療所）の求めに応じて、入院を希望する患者の診療が 24 時間可能な体制を確保している一定の施設基準を満たした施設。

⁴¹ 在宅療養支援歯科診療所…在宅療養を希望する患者に、その地域で主たる責任をもって定期的に訪問診療を行う歯科診療所。地方厚生(支)局長に届出をして認可される歯科診療所の施設基準のひとつ。

⁴² 在宅患者訪問薬剤管理指導料…在宅での療養を行っている患者に対して、必要な薬学的管理指導を行った場合に算定する診療報酬。

3 介護関係施設数の状況

・ 介護施設・介護サービス提供事業所の高齢者人口 10 万人あたりの数を比べると、東京都・医療圏よりも区の方が少ない施設は、介護療養型医療施設、通所介護（デイサービス）、療養通所介護、通所リハビリテーション（デイケア）、認知症対応型通所介護、介護老人福祉施設（地域密着型）であるが、極端に施設数が少ないサービスはなく、東京都・医療圏と比べて比較的介護関係施設は充足しています。

図表 42：高齢者人口 10 万人あたり介護関係施設数

（単位：箇所）

| サービスの種類 | サービスの内容 | 東京都 | 練馬区 |
|-------------------------|--|-------|-------|
| 介護老人福祉施設 （特別養護老人ホーム） | 常に介護が必要で、自宅では介護ができない方が対象の施設です。食事・入浴など日常生活の介護や健康管理が受けられます。 | 16.2 | 17.4 |
| 介護老人保健施設 | 病状が安定し、リハビリに重点をおいた介護が必要な方が対象の施設です。医学的な管理のもとで介護や看護、リハビリが受けられます。 | 6.4 | 8.4 |
| 介護療養型医療施設 | 急性期の治療が終わり、病状は安定しているものの、長期間にわたり療養が必要な方が対象の施設です。介護体制の整った医療施設（病院）で、医療や看護が受けられます。 | 1.8 | 1.3 |
| 居宅介護支援 | ケアマネージャーにケアプランを作成してもらうほか、安心して介護サービスを利用できるよう支援してもらいます。 | 112.8 | 133.5 |
| 訪問介護 | ホームヘルパーに自宅を訪問してもらい、身体介護や生活援助を受けます。 | 98.8 | 117.4 |
| 訪問入浴介護 | 自宅に浴槽を持ち込んでもらい、入浴の介助を受けます。 | 5.4 | 6.4 |
| 訪問看護 | 看護師に訪問してもらい、床ずれの手当てや点滴の管理をしてもらいます。 | 31.9 | 31.6 |
| 訪問リハビリテーション | リハビリの専門家に訪問してもらい、自宅でリハビリを受けます。 | 7.1 | 7.1 |
| 通所介護 （デイサービス） | 定員 19 名以上のデイサービスセンターで食事・入浴などの介護や機能訓練が日帰りで受けられます。 | 55.4 | 51.6 |
| 療養通所介護 | 常に看護師による観察を必要とする方を対象にしたサービスで、デイサービスセンターで、食事・入浴などの介護や機能訓練が日帰りで受けられます。 | 0.1 | 0.0 |
| 通所リハビリテーション （デイケア） | 介護老人保健施設や病院・診療所で日帰りの機能訓練が受けられます。 | 10.7 | 10.3 |
| 短期入所生活介護 （ショートステイ） | 介護老人福祉施設などに短期間入所して、食事・入浴などの介護や機能訓練が受けられます。 | 18.3 | 20.6 |
| 特定施設入居者生活 介護 | 有料老人ホームなどに入所している方が受けるサービスです。看護、医学的な管理の必要となる介護や機能訓練などが受けられます。 | 21.4 | 34.8 |
| 定期巡回・随時対応型 訪問介護看護 | 介護職員と看護師等の密接な連携による定期的な訪問を受けられます。また、通報や電話などですること、随時対応も受けられます。 | 2.8 | 3.9 |

| サービスの種類 | サービスの内容 | 東京都 | 練馬区 |
|-----------------|--|------|------|
| 夜間対応型訪問介護 | 夜間に定期的な巡回で介護を受けられる訪問介護、緊急時など、利用者の求めに応じて介護を受けられる随時対応の訪問介護などがあります。 | 1.2 | 1.3 |
| 地域密着型通所介護 | 定員 19 名未満の小規模なデイサービスセンターで、食事・入浴などの介護や機能訓練が日帰りで受けられます。 | 55.2 | 78.0 |
| 認知症対応型通所介護 | 認知症と診断された方が食事・入浴などの介護や支援、機能訓練を日帰りで受けられます。 | 14.0 | 11.0 |
| 小規模多機能型居宅介護 | 小規模な住居型の施設への「通い」や、自宅に来てもらう「訪問」、施設に「泊る」サービスが受けられます。 | 6.2 | 9.7 |
| 認知症対応型共同生活介護 | 認知症と診断された方が少人数で共同生活をしながら、食事・入浴などの介護や支援、機能訓練を受けられます。利用者は共同生活のなかで、できる限り今まで暮らしてきた生活を続けることを目指します。 | 19.2 | 20.6 |
| 介護老人福祉施設(地域密着型) | 定員 30 人未満の介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)です。 | 0.9 | 0.0 |
| 看護小規模多機能型居宅介護 | 利用者の状況に応じて、小規模な住居型の施設への「通い」、自宅に来てもらう「訪問」、施設に「泊る」サービスに加え、看護職員に自宅に来てもらう「訪問看護」を組み合わせたサービスが受けられます。 | 0.6 | 0.6 |

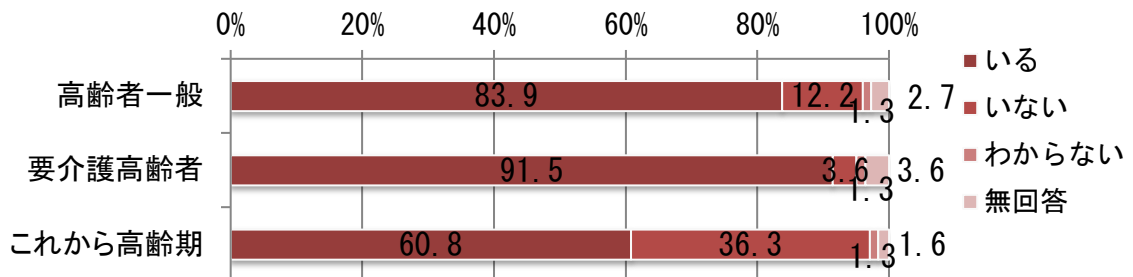
出典：厚生労働省「介護サービス情報公表システム（平成 28 年（2016 年）6 月時点）」、練馬区データ（平成 28 年（2016 年）9 月）、住民基本台帳人口平成 28 年（2016 年）1 月 1 日現在

4 高齢者の在宅医療等に関する調査結果

図表 43：かかりつけ医等の状況

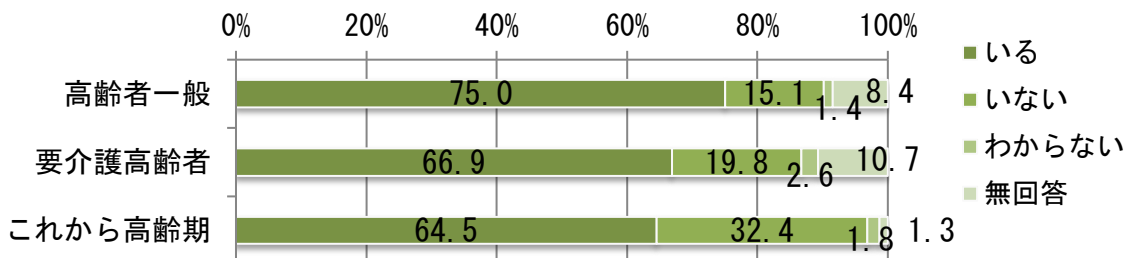
・かかりつけ医の有無

「いる」は高齢者一般で 83.9%、これから高齢期では 60.8%であった。



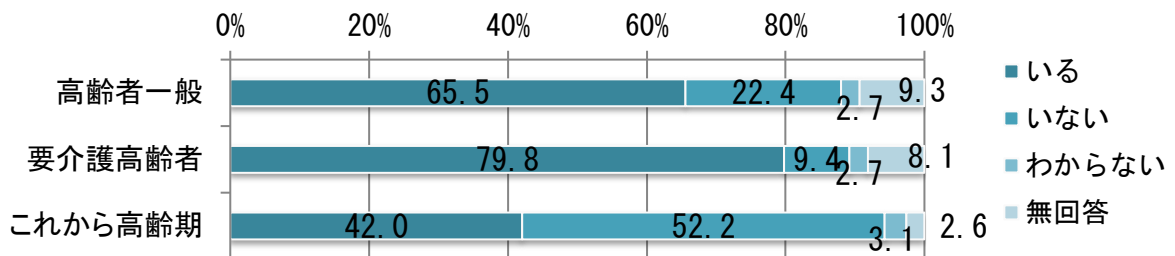
・かかりつけ歯科医師の有無

「いる」は高齢者一般で 75.0%、要介護認定者が 66.9%であった。



・かかりつけ薬局の有無

「いる」は高齢者一般で 65.5%、要介護認定者が 79.8%であった。



※高齢者一般…介護保険の認定を受けていない 65 歳以上の方

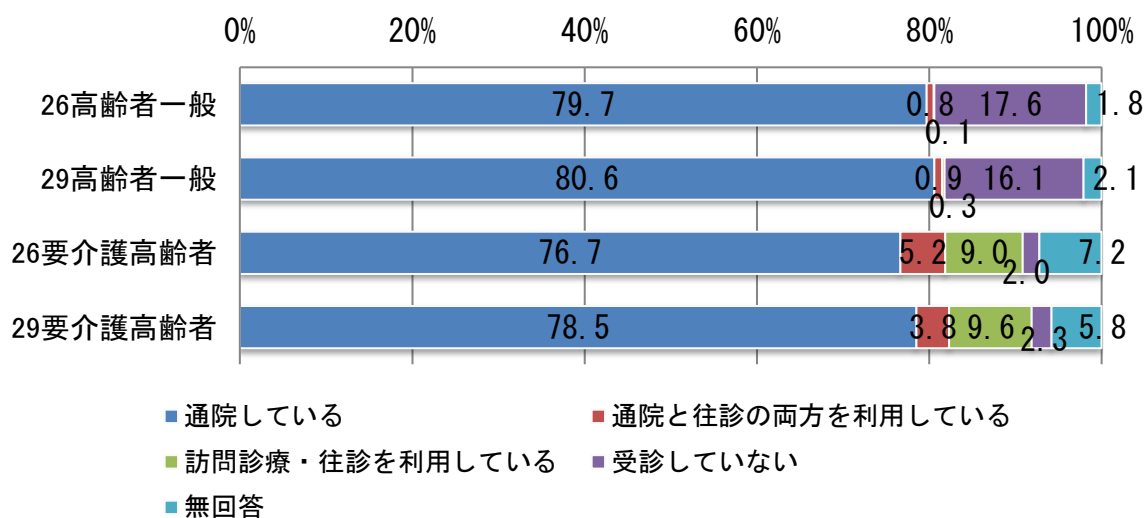
要介護高齢者…介護保険の認定を受けている 65 歳以上の方

これから高齢期…介護保険の認定を受けていない 55～64 歳の方

出典：練馬区「高齢者基礎調査報告書（速報）（平成 29 年 3 月）」

図表 44：医療の受診形態

前回調査（平成 26 年）に比べ、要介護者の訪問診療が 0.6 ポイント増えている。

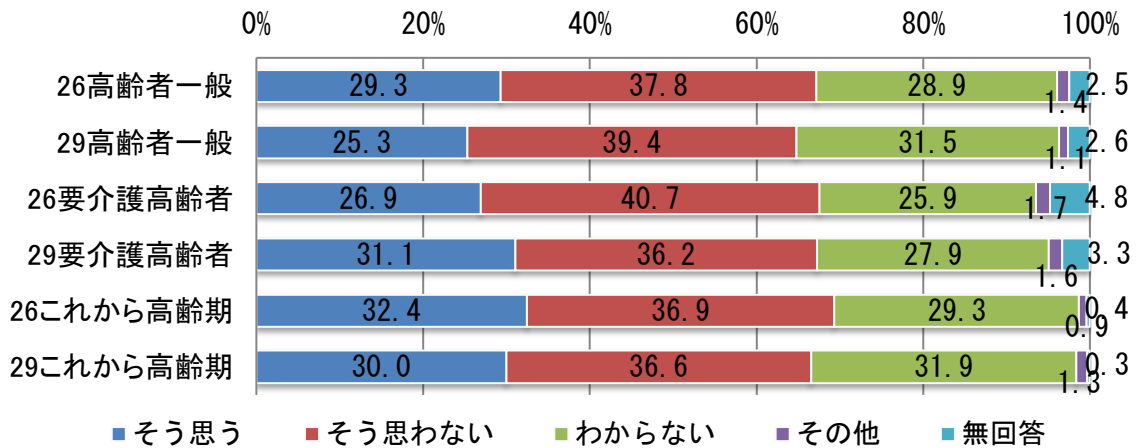


出典：練馬区「高齢者基礎調査報告書（速報）（平成 29 年 3 月）」

図表 45：在宅療養の希望等

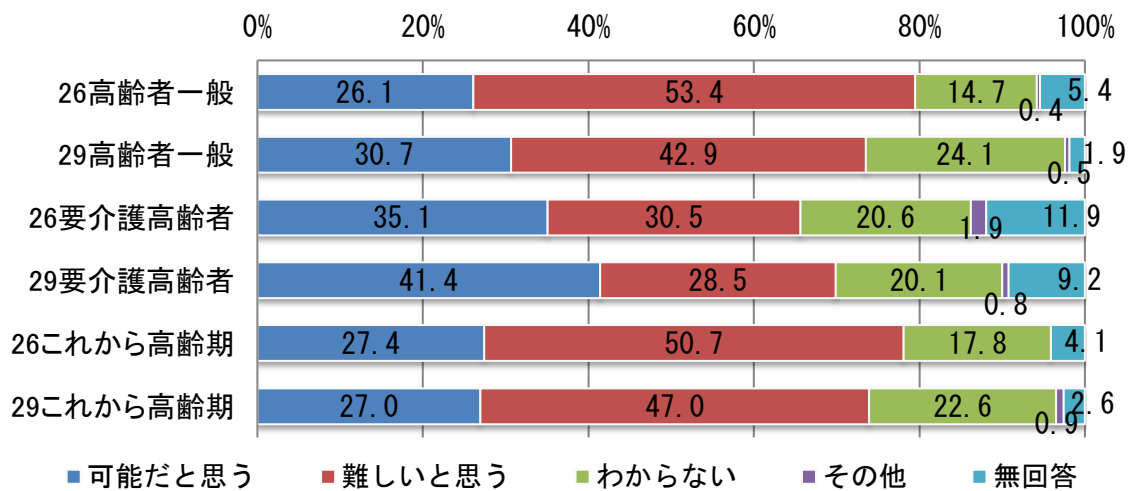
・在宅療養の希望

前回調査に比べ在宅療養を希望する要介護高齢者が 4.2 ポイント増加している。



・在宅療養の実現可能性

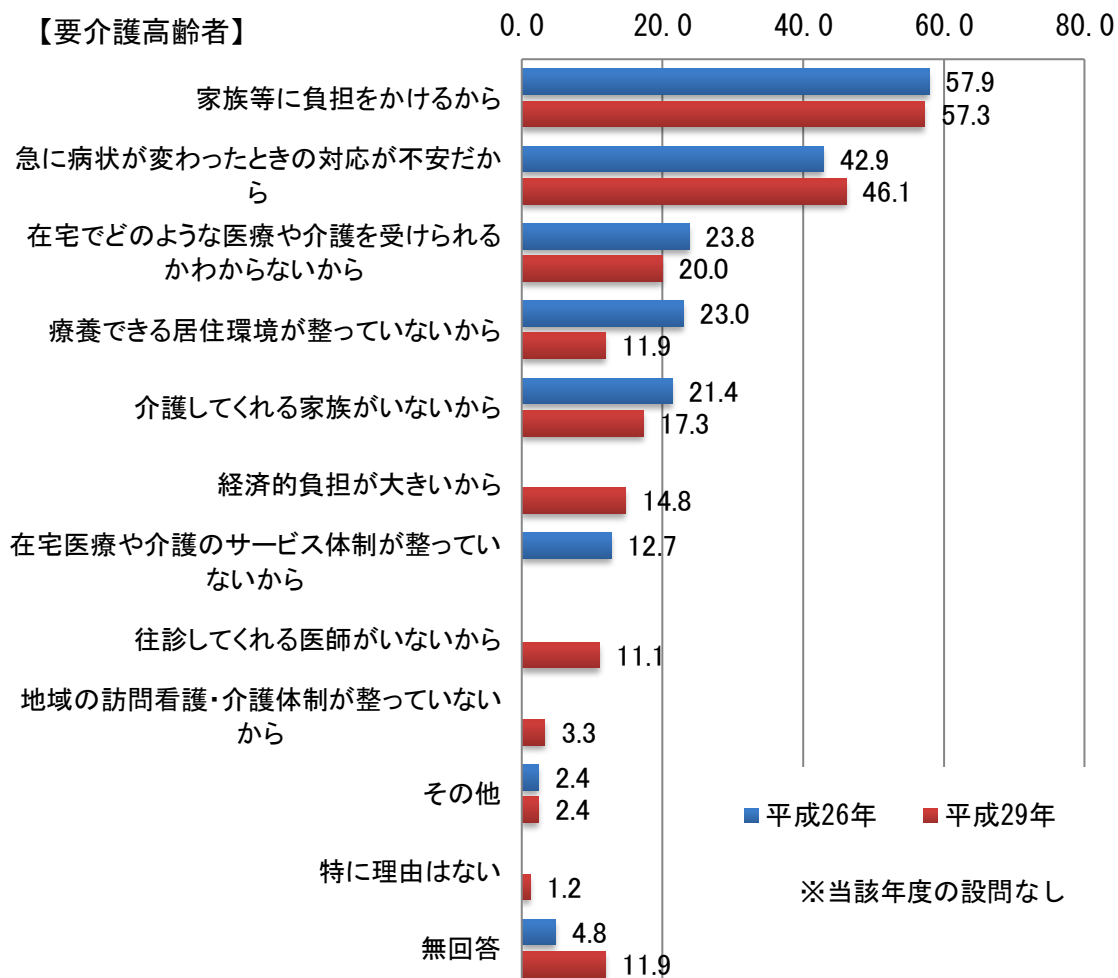
在宅療養を希望すると回答した人の実現可能性については高齢者一般で 4.6 ポイント、要介護高齢者で 6.3 ポイント増加している。



出典：練馬区「高齢者基礎調査報告書（速報）（平成 29 年 3 月）」

・在宅療養が難しいと思う理由(複数回答)

在宅療養を希望しない理由として、「家族への負担」が最も多く、次いで「急変時の対応への不安」であった。また、今回調査で新設した「経済的負担感」、「訪問診療医がない」が1割を超えていた。



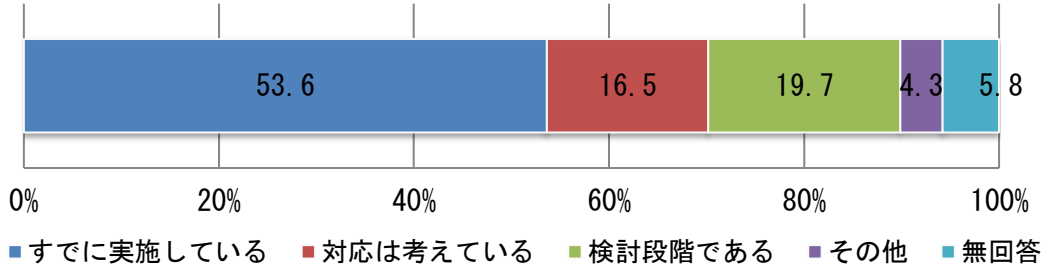
出典：練馬区「高齢者基礎調査報告書（速報）（平成29年3月）」

図表 46：介護サービス事業者調査

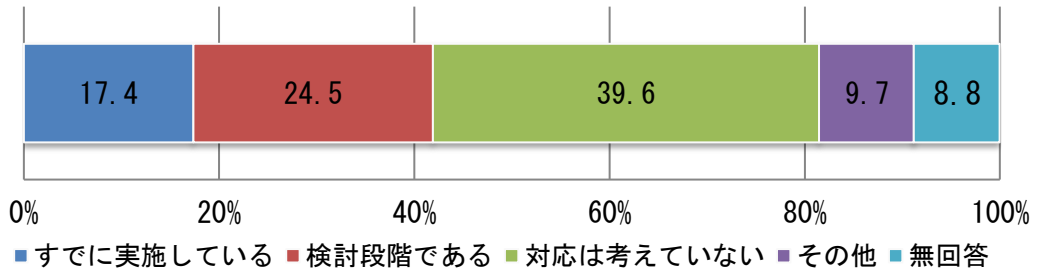
・ターミナルケアへの対応等

ターミナルのケアへの対応は 53.6%がすでに実施している。たん吸引等は 39.6%の事業者が対応は考えていないと回答している。

・ターミナルケアへの対応



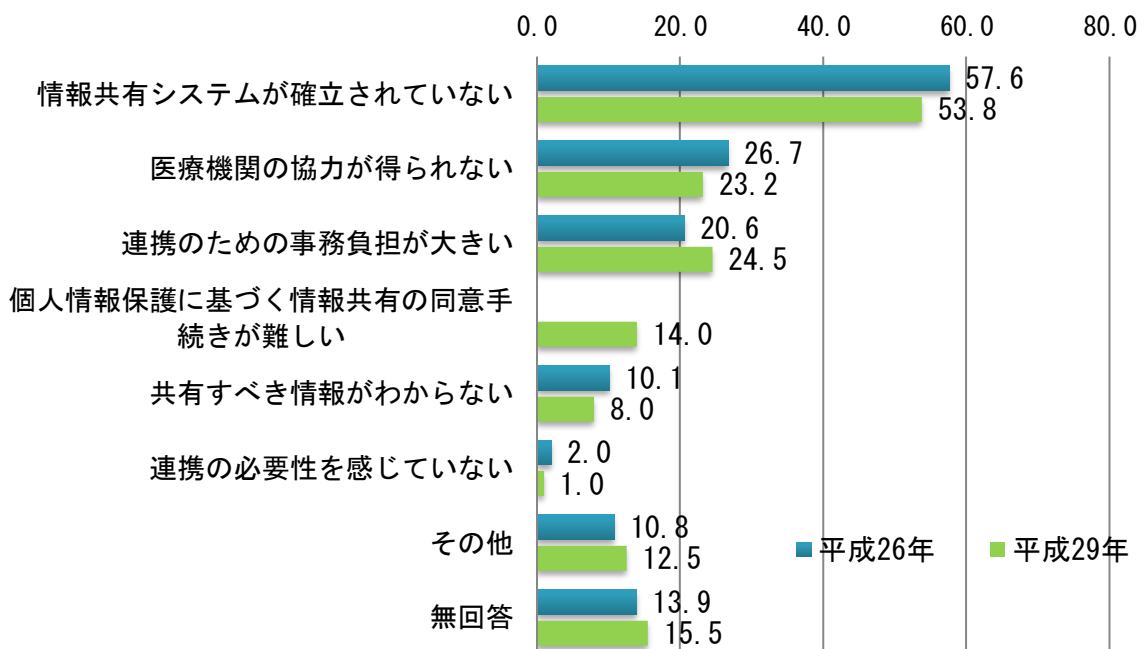
・介護職員によるたんの吸引等医療的ケアへの対応



・医療機関との連携

医療機関と連携を進める上での課題（複数回答）

半数の事業者が情報共有システムの確立が必要と答えているが、2割以上の事業者が連携のための事務に負担を感じている。



出典：練馬区「高齢者基礎調査報告書（速報）（平成 29 年 3 月）」